宮崎県椎葉村尾前方言における主題標示の再検討

−標準語との対照を通して−

言語学・応用言語学専攻分野
2016 (平成 28) 年入学
三井桃子

2020 (令和 2) 年 1 月提出

要旨

本論文の目的は、宮崎県椎葉村尾前方言の主題標示に関わる要因を、主格標示との兼ね合いと共に明らかにすることである。

(1) のような文は、標準語では「ハもガも使えない文」(尾上 1996) とされている。しかし、尾前方言においては主題標示が出現し得る。

(1) *tabako{ ga/no/wa/Ø }* *arukai.*
tabako{=ga/=no/=wa/Ø} ar-ru=kai
タバコ{=NOM1/=NOM2/=TOP/Ø} ある-NPST=Q
(道端で唐突に) 「たばこある?」

さらに、一般的に存現文 (出現・発生・消滅など、存在の認識局面を表す文: 下地 2019) であるとされている (2) のような文においても、主題標示が可能となる。存現文は情報構造的に主題が含まれず、文全体が新情報である文として扱われている。

(2) *takusii{Ø/wa/ga/no}* *otta.*
takusii{=Ø/=wa/=ga/=no} or-ta
タクシー{Ø/=TOP/=NOM1/=NOM2} いる-PST
(タクシーを探していて)「あ、タクシーいた。」

このような文を中心に、尾前方言の主題標示の範囲を記述し、主題標示と主格標示に関して以下の (3) を示す。

(3) a. 尾前方言の=wa は、標準語と同様、主題標示の機能を有する。
b. 尾前方言では、主題標示だけでなく、主格標示についても標準語より容認されやすくなる範囲が広い。
c. 標準語と異なり、尾前方言の主題標示において、判断文・現象文の違いは関与的でない。

本論文は、尾前方言の主題標示に関する最初の記述研究となる。さらに、本論文によって、従来の方言研究ではほとんど議論されてこなかった、主題標示に関する標準語と尾前方言の差が明らかとなった。

目次

グロス一覧 **1**

1. はじめに **2**

2. 尾前方言の音韻と文法の概要 **3**

2.1. 音韻と表記 **3**

2.2. 主語の格標示 **4**

3. 現象と先行研究 **4**

4. 理論的な背景 **6**

4.1. 主題 **6**

4.2. 焦点 **7**

4.2.1. 文焦点 7

4.2.2. 項焦点 8

4.2.3. 述語焦点 8

4.3. 判断文と現象文 **8**

4.3.1. 現象文における平叙文と疑問文の相違 9

4.4. 本論文の分析の枠組み **10**

5. 標準語の主題標示 **12**

5.1. 一般主題 **12**

5.2. 有題現象文 **14**

5.3. 文焦点 **15**

5.4. 項焦点 **16**

5.5. ここまでのまとめ **16**

6. 尾前方言の主題標示 **17**

6.1. 調査の概要 **17**

6.2. 調査結果 **18**

6.3. 一般主題 **19**

6.4. 有題現象文 **20**

6.5. 文焦点 **20**

6.6. 項焦点 **22**

7. おわりに **22**

7.1. まとめ **22**

7.2. 他の話者との比較 **24**

7.3. 今後の課題 26
7.3.1. 問題となる例 26
7.3.2. 有題現象文と文焦点 27
7.3.3. 対比焦点の主題標示 27
7.3.4. その他調査が不十分な点 28
7.4. 今後の研究への提言 28
参照文献 30
付録 1 (M 氏の調査データ) 31
付録 2 (M 氏以外の話者の調査データ) 47

グロス一覧

ACC	accusative	対格
COP	copular	コピュラ
DAT	dative	与格
FMN	formal noun	形式名詞
GEN	genitive	属格
INF	infinite	不定
INFR	inference	推論
INTJ	interjection	間投詞
IPF	imperfective	非完了
LOC	locative	場所格
NEG	negative	否定辞
NOM	nominative	主格
NPST	non past	非過去
PF	perfective	完了
PST	past	過去
Q	question	疑問
SFP	sentence final particle	終助詞
THM	thematic vowel	語幹拡張母音
TOP	topic	主題
-		接辞境界
=		接語境界

1. はじめに

本論文が対象とする方言は、宮崎県椎葉村尾前方言 (以下、尾前方言) である。椎葉村は宮崎県東臼杵郡に属し、宮崎県の北西部、熊本県との県境に位置する。下福良、不土野、大河内、松尾の 4 つの大字から構成され、それぞれの大字がさらに細かい区に分けられる。尾前地区は、椎葉村大字不土野・尾向区の一地区にあたる。尾向区は尾前地区と向山区の 2 つの地区により構成されており、向山区では熊本県八代市泉町樅木地区との交流が以前から盛んであるが、尾前地区ではそのような外部との交流は無い (下地ほか 2016: 6)。

図 1. 九州における椎葉村の位置
(宮崎県椎葉村村勢要覧資料編[1] 2012: 1)

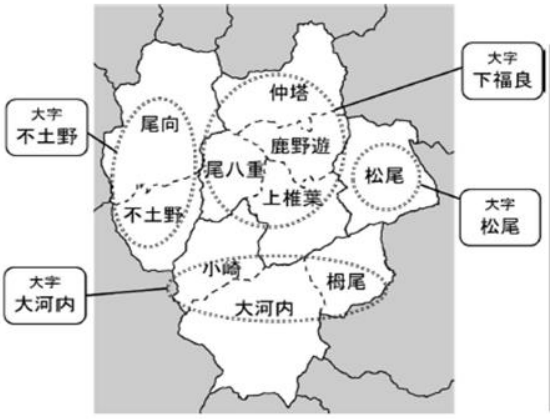

図 2. 椎葉村の区画
(下地ほか 2016: 2, 図 2)

宮崎県の方言は大きく日向方言と諸県方言に大別され、日向方言は更に北部方言 (臼杵)、中部方言 (児湯・宮崎)、南部方言 (那珂) に分けられる (岩元 1983)。このうち、椎葉方言は日向方言の北部方言圏に属する (下地ほか 2016: 6)。　本論文の目的は、尾前方言の主題標示とされている助詞=wa に関わる要因を明らかにすることである。尾前方言では、現代日本語標準語 (以下、標準語) では主題標示ができない環境において、主題標示が許容される場合がある。この言語事実を考察の出発点として、尾前方言における主題標示の許容範囲に関する要因を明らかにすることを目指す。

[1] 椎葉村役場ホームページ (http://www.vill.shiiba.miyazaki.jp/promote/pdf/youran2012.pdf), 最終閲覧 2020.01.10.

2. 尾前方言の音韻と文法の概要

本章では、3 章以降で記述する主題標示の議論を理解するうえで必要となる、音韻と文法の概略を記す。

2.1. 音韻と表記

下地 (2016a) による、尾前方言の子音音素を表 1、母音音素を表 2 に示す。

表 1. 子音音素表

	両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖音	(p) b	t d		k g	
摩擦音		s z			h
鼻音	m	n			
はじき音		r			
接近音	w		y		

[下地 2016a: 7](表の形式は筆者により一部変更)

表 2. 母音音素表

		+Front	-Front
+High	-Low	i	u
-High		e	o
	+Low		a

[下地 2016a: 10]

母音融合規則は (1) の (a) から (g) に示す通りである (下地 2016a: 12)。
なお、 // // は基底形を示す。

(1) 母音融合規則

(a) //ou// → uu
(b) //au// → oo
(c) //ei// → ee
(d) //ui// → ii
(e) //iu// → uu
(f) //oi// → ee
(g) //ai// → aa

主題標示も母音融合規則の影響を受ける。ただし、本論文 (付録を除く) においては便宜上、母音が融合している場合であっても、基底表示する。

本論文では、表 1、表 2 に示した下地 (2016a) による音素を表記に用いる。

2.2. 主語の格標示

尾前方言の主格助詞には、他の多くの九州方言と同様、=ga と=no のふたつがあり、有生性・他動性・焦点化の有無の 3 要因で交替する (下地 2016b)。下地 (2016b) の記述をもとにすると、=ga (G) と=no (N) の分布は、有生性階層 (代名詞 > 親族・固有名詞 > 人間 > 動物 > 無生物) を横軸に、他動性階層 (他動詞主語 A > 動作主的自動詞主語 S_A > 対象的自動詞主語 S_p) を縦軸にとったクロス階層 (下地 2019) を用いて、図 3 のように一般化できる。

	有生			無生
	固有・親族	人間	動物	
A	G	G	G	G
S_A	G	GN	N	N
S_p	G	N	N	N

-焦点

	有生			無生
	固有・親族	人間	動物	
A	G	G	G	G
S_A	G	G	G	G
S_p	G	G	G	G

+焦点

図 3. 尾前方言の主格標示 (G: =ga, N: =no)

なお、尾前方言では無助詞主語の出現頻度が標準語に比べて格段に低い事が、下地 (2016b) で指摘されている。

本論文では、主に主題標示について扱うが、主格標示との体系的張り合いについても考察する。

3. 現象と先行研究

本章では、本論文で扱う現象と、それに関する先行研究について述べる。

本論文では、尾前方言の主題標示を扱う。尾前方言の主題標示は、標準語の「ハ」と同根形式の=wa を用いる。本論文では特に、標準語で主題標示も主格標示も使えないとされる環境で、尾前方言においては主題標示が許容されるという現象 (以下の (2) のような現象) を対象とする。

(2) *tabako{ga/no/wa/Ø}* *arukai.*
tabako{=ga/=no/=wa/Ø} ar-ru=kai

タバコ{=NOM1/=NOM2/=TOP/Ø}　　ある-NPST=Q
(道端で唐突に)「たばこある?」

上記の (2) のような文は、「ハもガも使えない文」(尾上 1996 など) と言われ、標準語では主題標示も主格標示も許されず、無助詞が義務的となる。一方、尾前方言では (2) で例示されるように、主題標示も主格標示も可能である。この現象について、下地 (2019) は、宮崎県椎葉村方言では徹底して主題が標示される傾向にあると述べている。しかし、なぜ徹底して主題標示がなされるのかということについての言及はない。

さらに、以下の (3) のように、文全体が新情報になる出来事の認識局面 (出現・発生・消滅など、存在の認識局面) を表す文 (存現文: 下地 2019: 16) も、標準語では主題標示が許されない文であるとされている。しかし、尾前方言においては主題標示が可能である。

(3)　*takusii{Ø/wa/ga/no }*　　*otta.*
takusii{=Ø/=wa/=ga/=no}　　or-ta
タクシー{Ø/=TOP/=NOM1/=NOM2}　　いる-PST
(タクシーを探していて)「あ、タクシーいた。」

このように、標準語では主題標示が許されない環境でも主題標示が可能となる例は、九州方言や琉球語で広く観察される。下地 (2019) によると、椎葉村方言に加えて、南琉球宮古語伊良部島方言もそのような方言であるという。坂井 (2019) は、標準語ではハダカ標示でなければならない文において、熊本市方言 (高齢層) はハダカ標示を受け入れないことを指摘している。熊本市方言の例を (4) に示す。

(4)　a.　【唐突に】はさみ{ワ/*Ø}ある?
「ハサミある?」
b.　【描写】こんはな{ワ/*Ø }うつくしかねー。
「この花は美しいねえ。[2]」

[坂井 2019: 42, (3'), (4'a)]

ただし、これらの先行研究も、なぜ主語標示のハダカが受け入れられないのかということについて分析や説明はしておらず、現象の報告にとどまっている。

上記のような標準語との対照を踏まえると、尾前方言 (を含む九州諸方言) の主題標識

[2] 標準語口語においては、描写としての発話は「この花 Ø きれいだね。」のように主語標示がハダカとなる (坂井 2019: 41)。

の機能は「標準語のハの機能に相当する」とは言い切れない。あるいは、これらの現象は、下地 (2019) や坂井 (2019) が指摘するように、これらの方言における無助詞の許容範囲が、標準語と大きく異なることと関わっている可能性もある。すなわち、主題・主格・無助詞の体系全体が、標準語のそれとは異なっている可能性がある。

(2)、(3)、(4) のような、標準語においては主題標示が容認されず、無助詞が義務的となる文は、日本語研究では一般に現象文と呼ばれる。現象文は文全体を新情報として提示する文であり、無題文 (主題主語を持たない文) であると考えられてきた。しかし、6 節で後述するように、文全体を新情報として提示するという情報提示の仕方 (現象文であるか否か) と、その文に主題が含まれるか否か (有題文か否か) は、独立した問題である。本論文では、(2)、(3)、(4) のような文を有題現象文と位置づける。これらの文について、標準語では、現象文の主題標示が一様に容認されないのに対し、尾前方言では、主題を持つならば現象文であっても主題標示が可能であるという分析を示す。

4. 理論的な背景

本章では、主題標示を含む、情報構造に関する理論的背景を述べ、主題や焦点といった用語の定義を定める。さらに、話者が文をどう提示するかに関する分類として、日本語研究でしばしば用いられる、「判断文」「現象文」の定義についても概観する。

4.1. 主題

本論文における「主題」の定義は、(5) に示す Lambrecht (1994) による、'TOPIC'の定義に従う。

(5) TOPIC: A referent is interpreted as the topic of a proposition if in a given situation the proposition is construed as being about this referent, i.e. as expressing information which is relevant to and which increases the addressee's knowledge of this referent.

[Lambrecht 1994: 131]

(筆者訳)

主題: ある状況を描写する場合に、その中のある指示対象に関する命題であるとして提示される場合、その指示対象を主題と呼ぶ。すなわち、命題がその指示対象に関連している情報を述べている場合や、その指示対象についての聞き手の知識を増やす情報を述べている場合、その指示対象はある命題における主題であると解される。

主題には、一般主題、対比主題、新規導入の主題などのサブカテゴリーがあり、これらそれぞれが異なる標示法を持っている (下地 2019: 7)。例えば、典型的な主題 (下地 2019 による「一般主題」) は、標準語の口語において無助詞で発話されることが多い。一方、対比主題は標準語口語においてもハでの標示がなされる (野田 1996)。(6)、(7) に示すような、聞き手の注意に初めて入ってくる現場指示の主題主語や、文脈上まだ確立していない指示対象を主題にする場合 (新規導入の主題: 下地 2019) は、無助詞の他に、ナラやッテが選択される (下地 2019: 7)。

(6) 八百屋で、果物を 1 つ取って店主に聞く
これ {#ハ/#ガ/Ø/ッテ} いくら?

[下地 2019: 7, (11)](ただしッテについては筆者が付加)

(7) 山田のことを気にかけている聞き手に言う
あいつ {Ø/ナラ/#ハ} 外で遊んでるよ。
あいつ {Ø/ナラ/#ハ} 家で飯食ってるよ。

[下地 2019: 7, (12)]

4.2. 焦点

情報構造を問題とするときに、主題の有無による区別のほか、焦点という観点から、文焦点・項焦点・述語焦点という 3 つの焦点構造に言及することもある。さらに、日本語学では中立叙述・総記といった独自の用語も見られる。これらの異同を明らかにしつつ、本論文で用いる用語の定義を行う必要がある。そこで以下では、下地 (2019) に基づき、焦点構造を軸に、上記の用語の整理と定義づけを行う。

4.2.1. 文焦点

文焦点は、情報構造が前提部と焦点部に分かれておらず、以下の (8) のように文全体が新情報を提示する。以下の (8) では下地 (2019) に倣い、焦点領域を下線で示す。

(8) (電話で「何か騒がしいけどどうしたの?」と聞かれて)
<u>親父が酒飲んでるんだよ</u>。

[下地 2019; 4, (5)]

文焦点は通常、主題を含まない無題文とされている。日本語学では中立叙述 (久野 1973) と呼ばれる。文焦点のように主題を含まない文の出現頻度は極めて低く、様々な言語で特殊な構文をとることが知られている (下地 2019)。

4.2.2. 項焦点

以下の (9)、(10) のように、項 (主語ないし目的語) だけが焦点領域に入っている構造を項焦点という。(9)では、焦点領域 (下線部) が主語に、(10)では、焦点領域が目的語になっている。

(9) (電話で「誰が酒飲んでるの?」と聞かれて)
親父が酒飲んでる。

[下地 2019: 4, (6)]

(10) (電話で「親父は何を飲んでるの?」と聞かれて)
親父は酒飲んでるよ。

(筆者作例)

主語焦点は、これまで、中立叙述に対して「総記」(久野 1973) と呼ばれてきた文のタイプに相当する。

4.2.3. 述語焦点

どの言語においても、自然談話で最も頻出する構造は (11) に示す述語焦点構造である。主語は焦点領域外にあり (すなわち主題であり)、それ以外 (他動詞文の場合は目的語も含む述語部全体) が焦点となっている。

(11) (電話で「親父何してるの?」と聞かれて)
(親父は) 酒飲んでるよ。

[下地 2019: 4, (7)]

述語焦点構造は主題主語を含むため、有題文である。

4.3. 判断文と現象文

4.1 節、4.2 節においては、「主題」や「焦点」といった、情報構造上の違いによる文の分類を行った。本節では、これらとは別に、モダリティの観点からの文の分類である、「判断文」「現象文」について言及する。

野田 (1996) によると、判断文は、話し手の判断が加わっている文のタイプのことである。一般的には、主語から述語にかけて「旧情報から新情報」という情報の流れをもつ有

題文であり、有題文におけるハは主題を表す (大谷 1995) とされている。

一方、現象文は、一般的には、「文全体が新情報」である無題文であり、現象文におけるガは中立叙述を表す (大谷 1995) とされている。現象文は、現象描写文とも呼ばれる (仁田 1991)。

4.3.1. 現象文における平叙文と疑問文の相違

仁田 (1991) は、「現象描写文」とは「述べ立て」の一タイプであり、ある時空の元に生起、存在する現象をそのまま主観の加工を加えないで言語表現化して述べ伝えたものであるとしている。また、現象描写文は文全体が新情報の無題文である (仁田 1991: 133)。仁田 (1991) は、情報の新旧の区別と、主題の有無の区別を同一視している。しかし、これらの二つの区別は同一視すべきでない。現象文と判断文の区別は、モダリティの観点からなされたものであり、主題を持つか否かという観点からなされたものではないからである (野田 1996)。

主題を持つか否かという区別 (有題文・無題文) と、文が持つ情報の区別 (新情報・旧情報・新情報) を変数として、文のタイプについてまとめると、表 3 のようになる。

表 3. 現象文・判断文・有題現象文のまとめ

	文全体が新情報	旧情報と新情報をもつ
有題文	有題現象文	判断文
無題文	現象文 (現象描写文)	N/A

現象文と主題の有無の関わりについて述べている先行研究に、黒崎 (2003) がある。黒崎 (2003) は、仁田 (1991) による現象文の平叙文と現象文の極性疑問文について、情報構造 (主題を含むか否か) という観点から分析している。黒崎 (2003) によると、現象文の平叙文は無題文 (主題を持たない文) である一方、現象文の疑問文は有題文 (主題を持つ文) であると述べている。すなわち、主題性という面において、上の二者は非対称である。(12) が現象文の例、(13) が現象文の疑問文の例である。

(12) 〔道をあるいていたら偶然、杏子さんを見つけて〕
杏子さん (Ø/*ハ/ガ) いる。

(筆者作例)

(13) 〔恋人 (杏子) の実家を訪ねてきた男が恋人の母親に向かって言う。〕
杏子さん (Ø/*ハ/*ガ) 、いますか?

[黒崎 2003: 87, (41)]

(12) は無題文であるため、主格標示 (ガ) が可能であり、主題標示 (ハ) は容認されない。(13) は有題文であるため、主格標示は許されない。しかし、(13) は有題文であるのに、主題標示も許されない。

(12) は主語である「杏子さん」も、述語である「いる」も、全体を新情報として聞き手に提示する点で無題文であるといえる。一方、黒崎 (2003) によると、(13) における主語の「杏子さん」は、主題と分析できる。これは、疑問文は平叙文が前提となり、その命題の成立を問う文タイプであるという疑問文の性質に起因する。つまり、(13) はそのもととなる平叙文の現象文 (無題文) である (12) が前提となっている。すなわち、(12) の例文が発話されるとき、「杏子さんいる」という命題は聞き手にとって前提となり、命題の真偽が新情報となる。結果的に「杏子さん」は主題になる、というわけである。しかし、黒崎 (2003) によると、有題現象文の無題文において主題として選択された名詞句には、「ハ」が付加できるほどの主題性が備わっていない。そのため、現象描写文の疑問文において「ハ」を付加すると、対比感が生じてしまう。それを回避するために、現象描写文の疑問文においては無助詞が選択される。

このように、現象文でありながら主題を含む文を、本論文では有題現象文[3]と呼ぶ。

この、「有題現象文」と「現象文」の区別が、尾前方言の主題標示に関与的であることを 6 章で述べる。

4.4. 本論文の分析の枠組み

次章以降、尾前方言の主題標示と主格標示の体系的な張り合い関係を記述し、その体系を標準語の体系と比較する上で、有意義な分析の枠組みを提示する。以下の図 4 に示すように、本論文ではまず、主語に主題性がある文と、主題性が無い文を分ける。そして、それとは別のレベルにおいて、判断文と現象文が区別されると想定する。これは、4.3.1 節でみた、有題現象文の存在を踏まえたものである。このように 2 つのレベルを分け、それらの組み合わせとして考えることで、「一般主題」「有題現象文」「文焦点」「項焦点」の 4 つの文を定義する。それぞれの文の定義については、5 章で後述する。

[3] 本論文では、極性疑問文のみを扱う。

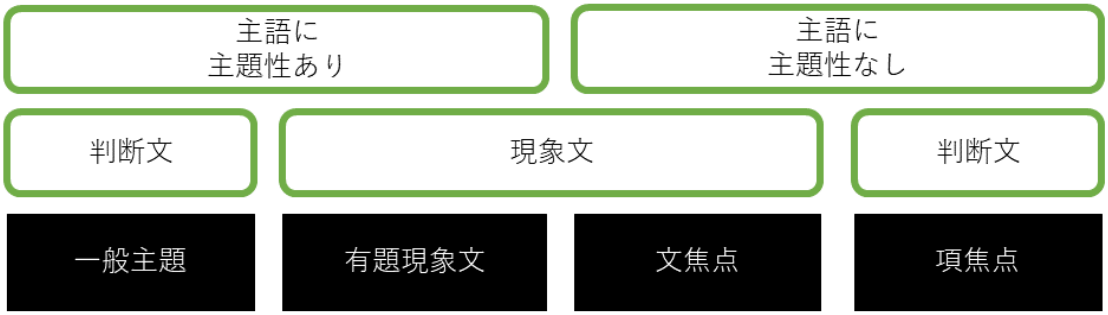

図 4. 本論文における文の分類

上記の枠組みを用いて、5 章では標準語の、6 章では尾前方言の主題標示・主格標示の張り合い関係を記述していく。結果は図 5、図 6 に示すようになる。

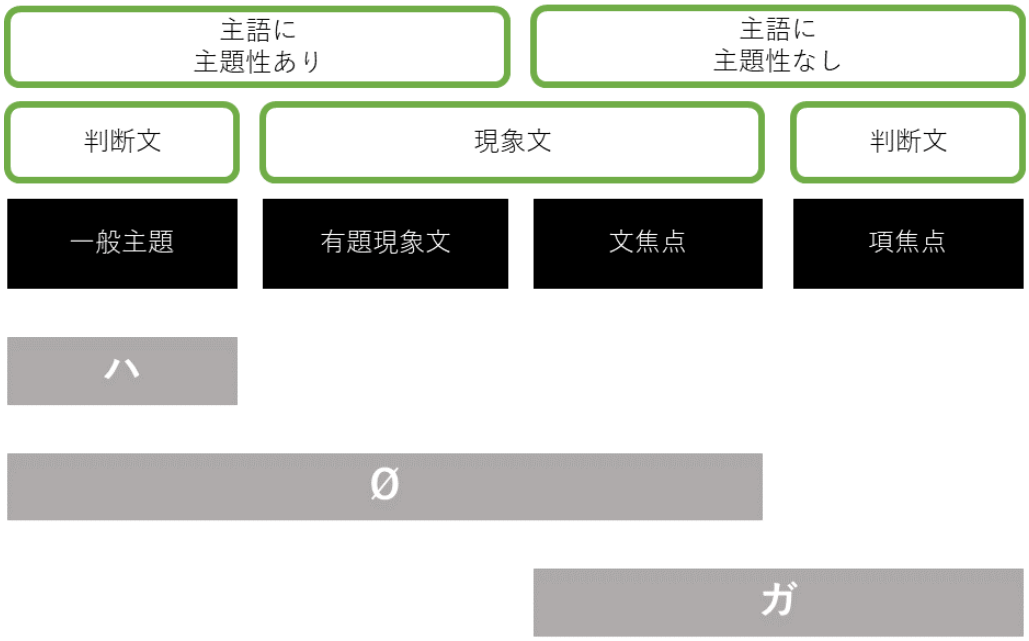

図 5. 標準語における主格標示と主題標示

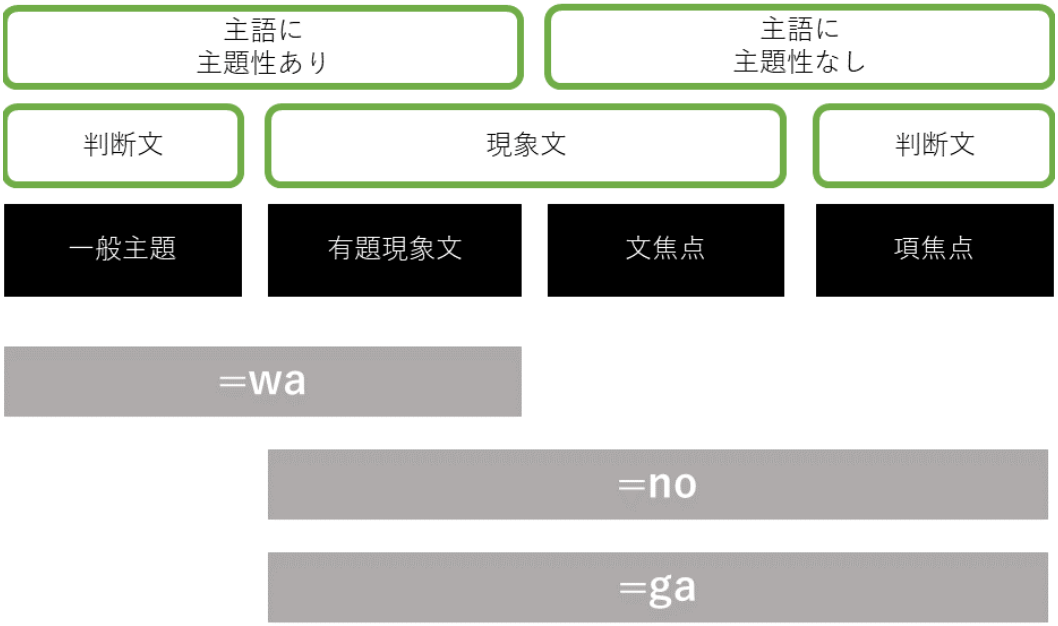

図 6. 尾前方言における主格標示と主題標示

このように、ここで示した 4 つの文タイプに対して、主題標示・主格標示の分布をマッピングすることで、方言差が明確になる。それと同時に、それぞれの言語の主題標示において、どの変数 (主題性の有無、判断文か現象文か、など) が主な要因になっているかがわかる。なお、下地 (2019) が述べるように、本調査においても、基本的に無助詞は容認されなかった。一部の容認された例についても、それをもとに一般化をするに足るデータが得られなかったため、本論文において、尾前方言の無助詞は考察の対象としない。

5. 標準語の主題標示

本章では、4.4 節で示した枠組みに従い、標準語の一般主題・有題現象文・文焦点・項焦点がどのように標示されるかを概観する。

5.1. 一般主題

久野 (1973) は、ハに、「主題を表す「ハ」」と、「対照を表す「ハ」」という 2 つの用法があると述べている。本論文は、下地 (2019) に倣い、久野 (1973) が「主題を表す「ハ」」を有する文として扱っている文を、一般主題を有する文であると定義する。

久野 (1973) は、主題を表すハは、「人間一般」、「言語学者一般」のような総称名詞句及び、文脈指示の名詞句にしか付すことができないと指摘している。以下に例を示す。

(14) a. 鯨ハ哺乳動物デス。[総称名詞]
b. 太郎ハ私ノ友達デス。[文脈指示]
c. 二人ハパーティーニ来マシタ。[「その二人」の意味]
d. *雨ハ降ッテイタ。

[久野 1973: 30, (13), (14)]

(14a)、(14b) における「鯨」、「太郎」はそれぞれ総称名詞句と文脈指示の名詞句であるため、ハの使用が容認される。(14c) の文は、「二人」が「その二人」の 意味の場合、すなわち「二人」の指示対象が明示的であり、文脈指示と捉えられる場合にのみ、ハの使用が容認される。(14d) は、(15) のように、それ以前に雨のことが会話に導入されており、文脈指示と解すことが出来る場合や、(16) のように「雨」が総称名詞として用いられている場合に、ハの使用が容認される (久野 1973: 30)。

(15) 朝早ク雨ガ降リ出シタ…夜ニナッテモ雨ハマダ降ッテイタ。

[久野 1973: 30, (15)]

(16) 雨ハ空カラ降ル。

[久野 1973: 30, (16)]

4.1 節で言及したように、標準語口語においては、一般主題の文における主題標示は無助詞で発話されることが多い (野田 1996)。(17)に(7)の例を再掲する。

(17(=(7))) 山田のことを気にかけている聞き手に言う
あいつ {Ø/ナラ/#ハ} 外で遊んでるよ。
あいつ {Ø/ナラ/#ハ} 家で飯食ってるよ。

[下地 2019: 7, (12)]

(17)で示した例において、標準語口語では主題標示が容認されない。これは、主語が主題であることが明らかであり、あえて主題標示をすると対比の解釈がなされてしまうためである。本論文において、対比の解釈を避けるため主題標示が容認されづらくなる (17) のような文は、分析の対象としない[4]。

[4] 例えば、黒崎 (2003) によって、聞き手の情報を求める文 (「砂糖、入れる?」など) や、話し手、聞き手が主題の文 (「お前、太った?」など) に分類されている文である。

5.2. 有題現象文

一般的に現象文は、無題文として扱われている (大谷 1995 など)。ただし、4.3.1 節で言及したとおり、現象文にも、有題文が存在し得る。本論文で有題現象文と呼ぶタイプの文である。(18)、(19)、(20) に示すような文である。

(18) (兄を探していて)「お兄ちゃんいた。」

(筆者作例)

(19) (探していた財布をみつけて)「財布あった。」

(筆者作例)

(20(=((13))) 〔恋人 (杏子) の実家を訪ねてきた男が恋人の母親に向かって言う。〕
杏子さん (Ø/*ハ/*ガ) 、いますか?

[黒崎 2003: 87, (41)]

(18)、(19) は、大谷 (1995)による「ハもガも使えない文」に相当する。大谷 (1995) は、「発見」の場で「現象をそのまま表現」した発話文のうち、ガ格の名詞が先行文脈に登場しており、話し手・聞き手にとって旧情報化している場合には「ハもガも使えない文」になると述べている。このような文において、事態の捉え方は、現象を認知し判断の加工を加えずにそのまま発話しており、現象文的である。一方、情報の流れは、主語の名詞が文脈上主題になっており、判断文的である。この矛盾によって、(18)、(19) のような文は「ハもガも使えない文」となると、大谷 (1995) は述べている。

有題現象文になりやすい文の共通点を、以下に 2 つ挙げる。

1 つ目に、これらは(18)、(19) のように、「探す」「見つける」といった探索・獲得に関する行為に対応する、「ある」「いる」「ない」などの存在文である。探索・獲得に関する行為は、その対象 (有題現象文において主語となる名詞句) についての存在が前提となっている。すなわち、探索・獲得に関する行為の対象を主語とした文においては、主語が主題となっている。

ただし、存在文は、必ずしも有題文となるわけではない。例を (21)、(22) に示す。

(21) (道端で偶然、兄をみつけて)「あ、お兄ちゃん (が) いる。」

(22) (道端で偶然、落ちている財布をみつけて)「財布あった。」

(21)、(22) のような文は、主語となる名詞句の存在は前提となっておらず、主語は、発

話の瞬間に初めて発話者の意識にのぼっている。これは通常の (無題) 現象文である[5]。

2 つ目に、主語が定ないし特定であるという共通点がある。定性は、話し手によって提示されたある名詞句の指示対象が、聞き手によって同定可能か否かに関わる概念である (下地 2019) 。様々な言語において、不定の名詞句は主題となることができないことが、Lambrecht (1994)、久野 (1973) などで指摘されている。日本語 (標準語) においても同様であり、不定の名詞句は、「は」によってとりたてられる主題の基となる語句の中に、現れえないとされている (寺村 1991)。

特定性は、話し手がある特定の人やモノを想定して話しているか否かに関わる概念である (下地 2019)。特定性と主題の関係について、特定のものが話題にすでに導入されている場合には主題となりやすく、導入されていない場合には焦点化されやすい、すなわち主題になりづらいことが Foley (2007) などにおいて指摘されている。よって、主語が不特定の名詞句である場合、その文は有題文となりづらくなる。

定性・特定性の観点から、(18)、(19)、(20) をみると、これらは全て定かつ特定である。一方、無題現象文は不定主語でも成立する。つまり、(18)、(19) において、聞き手が「財布」「お兄ちゃん」を文脈上初めて聞いたとしても、これらの文は無題現象文として成立する。そのような文は、存現文 (5.3 節で後述) として扱う。

5.3. 文焦点

命題全体が新情報である場合、その文における焦点範囲は文焦点である。このとき、文全体が焦点領域内にある。そのため、主語の主題標示が回避され、主語は主格標示がなされる。例えば (23) に示すような文である。

(23(=((8))) (電話で「何か騒がしいけどどうしたの?」と聞かれて)
親父が酒飲んでるんだよ。

[下地 2019: 4, (5)]

述語動詞の語彙的性質により、文焦点になりやすい、あるいは文焦点に固定された文もある。例えば、出現・発生・消滅などの、存在の認識局面を表す述語を有する文である(存現文: 下地 2019: 16)。以下の述語をとる文は、そのような文である。

(24) ない、いる、消えた、来た、出た、できてる、見える、etc.

[下地 2019: 16, (26) より一部抜粋]

[5] 有題現象文の述語は過去形が、無題現象文の述語は非過去形が使われている点にも注意されたい。述語のテンスに関する分析は、本論文では詳しく立ち入らない。

(24) に示すような述語は、出来事の認識局面を表すという語彙的特徴を有する。そのため、主語を主題として、それにコメントを付け加えるという通常の構造 (述語焦点構造) をとるよりも、主語の出現や発生を 1 つの認識イベントとして、すなわち主語も述語も一つの新情報として提示することに使われやすい。そのため、文全体が新情報である文焦点構造となりやすくなる[6](下地 2019: 16)。

標準語において、文焦点の文の主題標示は容認されない。

5.4. 項焦点

項だけが新情報である場合、その文における焦点範囲は項焦点である。項だけが焦点領域内にあるため、主語は主題となり得ず、主格標示がなされる。(25) に例を示す。

(25(=(9))) (電話で「誰が酒飲んでるの?」と聞かれて)
親父が酒飲んでる。

[下地 2019: 4, (6)]

項焦点の文は、これまで総記と呼ばれてきた文のタイプに該当する (下地 2019: 4)。

項焦点の文は、標準語において、主題標示が容認されない。

5.5. ここまでのまとめ

本章で導入した文の分類について、標準語の主題標示・主格標示の範囲とともにまとめると、以下の図のようになる。

[6] ただし、5.2 節で述べたように、「ある」「いる」など一部の動詞は、文脈によっては有題現象文となる。

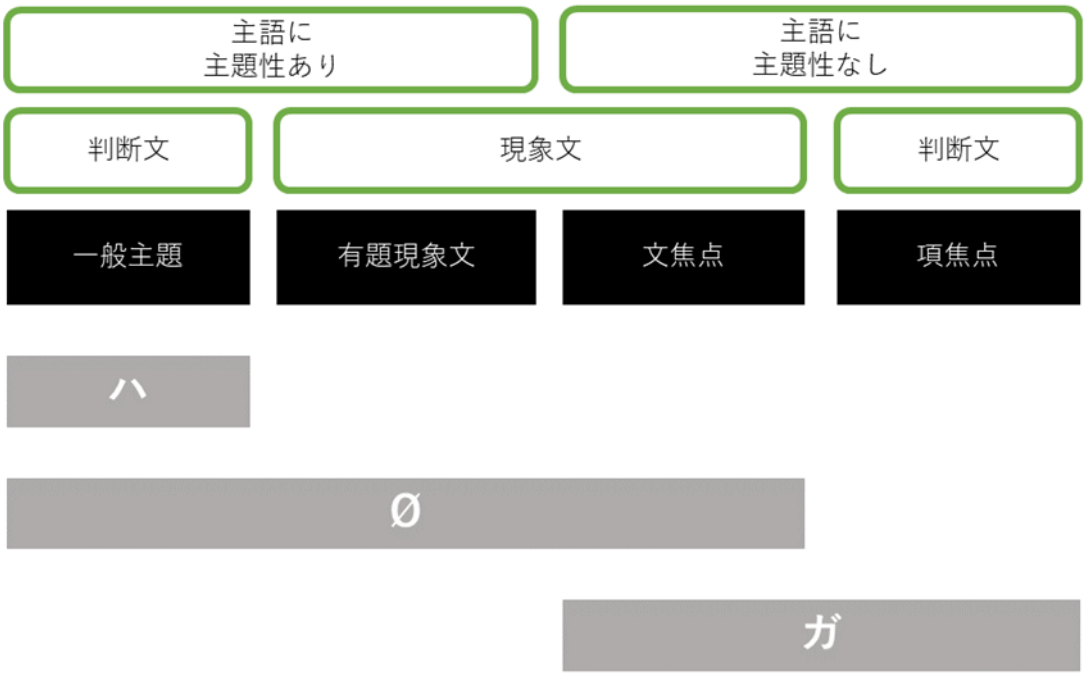

図 7. 標準語における主格標示と主題標示 (図 5 再掲)

6. 尾前方言の主題標示

本章ではまず、調査の概要について述べる。次に、6.2 節において、尾前方言の結果を概観しながら標準語と対比させたあと、6.3 節以降でそれぞれの文のタイプごとの結果を述べる。

6.1. 調査の概要

調査においては、主に M 氏 (女性) のイディオレクトに集中し、その体系を記述することを目指した。

調査は 5 回実施した。内訳は、調査票を用いた対面形式の調査が 4 回、電話による調査が 1 回である。それぞれの調査で、対象とした話者は表 4 の通りである。

表 4. 調査回と対象とした話者

調査回数	話者
1 回目	M 氏 (女性)・Y 氏 (男性)
2 回目	F 氏 (女性)・M 氏 (女性)
3 回目	M 氏 (女性)
4 回目	F 氏 (女性)・H 氏 (女性)・M 氏 (女性)・T 氏 (男性)
5 回目	M 氏 (女性)

なお、調査において、ある助詞を用いて問い返し、「容認できる」との回答を得たにもかかわらず、話者からその助詞を用いた例文を発話の形式で得られなかった場合、その助詞は容認されないものであるとみなす。例えば、「A ハある」という形式が容認できるとの回答を得て、話者にその通り発話するよう依頼したときに、=wa 以外の形式 (「A ガある」など) でしかデータが得られなかった場合、その話者は当該例文において、=wa を容認しないものとみなす。

6.2. 調査結果

まず、標準語のハ、Ø、ガが容認される範囲について図 8 に、尾前方言の=wa、=no、=ga が容認される範囲について図 9 にまとめる。なお、図中の数字は、5 節で言及した節番号である。

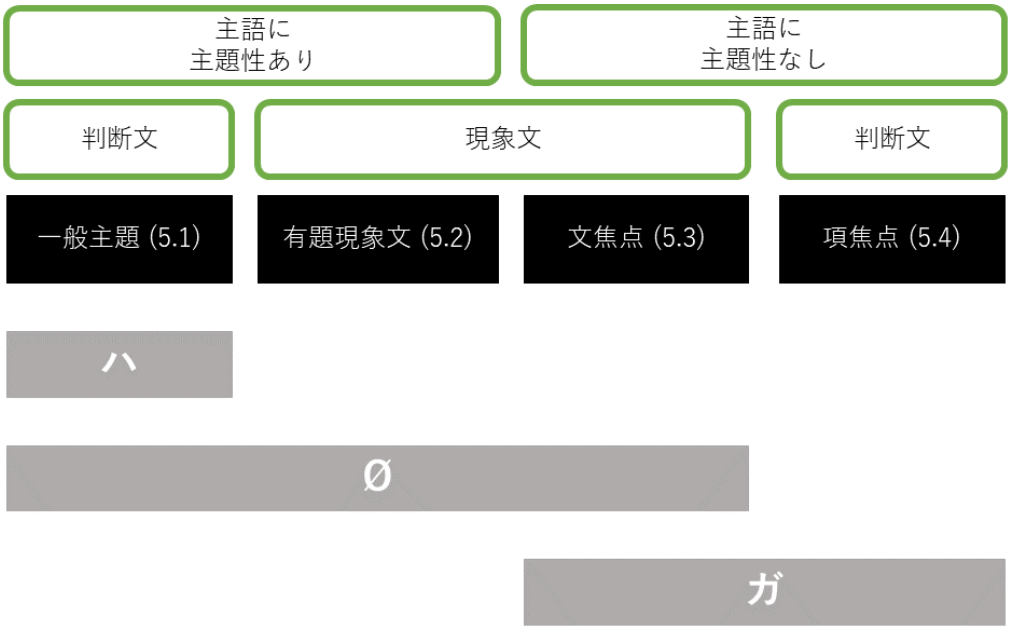

図 8. 標準語における主格標示と主題標示 (図 5 再掲)

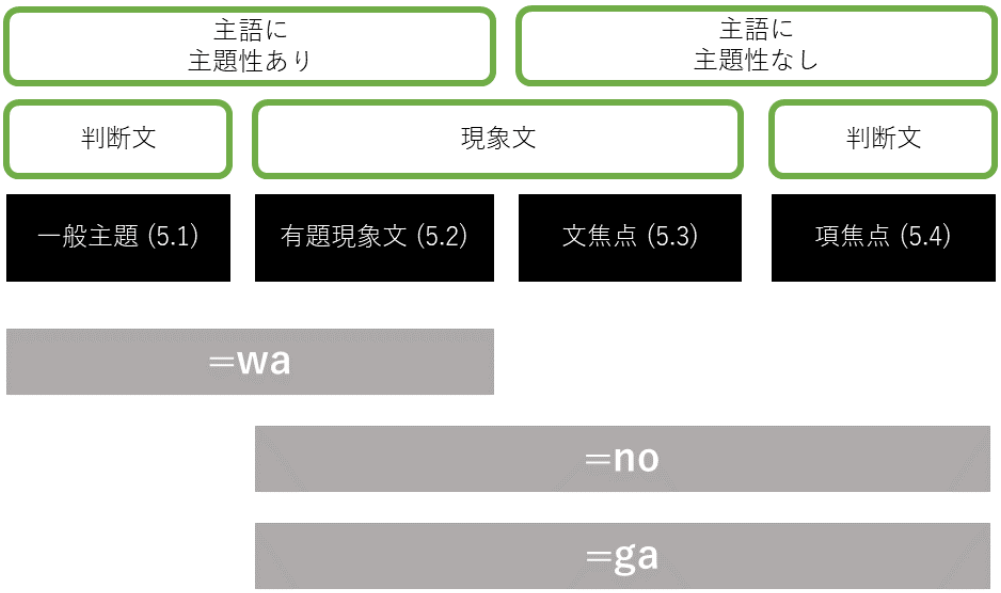

図 9. 尾前方言における主格標示と主題標示 (図 6 再掲)

図 8・図 9 を比較すると、標準語のハと尾前方言の=wa の使用範囲の違いが分かる。標準語では、主題性がある文の中でもハが使えるのは、一般主題に限られる。これに対し、尾前方言の=wa は、主題を持つ文であれば、一般主題でも有題現象文でも使用可能である。

なお、尾前方言においては、主格標示についても標準語と使用範囲が異なる。7.1 節で後述する。

6.3 節以降で、調査結果について、詳しく述べていく。なお、調査データの例文について、容認されたものについては回答を得た順に並べており、未調査の助詞については記載していない。

6.3. 一般主題

(26)	*oyazi/wa/*ga/*no/*Ø}*	*syootyuu*	*nuudoruwai.*
	oyazi{wa/*=ga/*=no/*Ø}	syootyuu	nom-tor-ru=wai
	親父{=TOP/*=NOM1/*=NOM2/*Ø}	焼酎	飲む-PF-NPST=SFP
	(電話で「親父いま何してる？」と聞かれて)		
	「親父は酒飲んでるよ。」		

一般主題の文においては、標準語と同様、主題標示のみが容認され、主格標示は容認されない。

6.4. 有題現象文

(27) *takusii{no/wa}* *kitayo.*
takusii{=no/=wa} ki-ta=yo
タクシー{=NOM2/=TOP} 来る-PST=SFP
(タクシーを待っていて) 「あ、タクシー来たよ。」

(28) *zeniire{wa/?no/*ga/*Ø}* *kokee* *attahuu.*
zeniire{=wa/?=no/*=ga/*Ø} koko=ni ar-ta=huu
財布{=TOP/?=NOM2/*=NOM1/*Ø} ここ=DAT ある-PST=INFR
(探していた財布をみつけて) 「財布がここにあった。」

(29) *antyan{no/ga/wa}* *ottokai.*
antyan{=no/=ga/=wa} or-ru=to=kai
お兄ちゃん{=NOM2/=NOM1/=TOP} いる-NPST=FMN=Q
(友人がお下がりの服を着ていて)
「お兄ちゃんいるの?」

標準語の場合、有題現象文は、主題標示も主格標示も許容されない。しかし、尾前方言においては主題標示や主格標示が容認される。ただし、=wa は必ずしも第一解答ではない。

6.5. 文焦点

(30) *oyazi{ga/*no/*wa/*Ø}* *syootyuu.*
oyazi{=ga/*=no/*=wa/*Ø} syootyuu
親父{=NOM1/*=NOM2/*=TOP/*Ø} 焼酎

nuudoruwai.
nom-tor-ru=wai
飲む-PF-NPST=SFP
(電話で、何か騒がしいけどどうしたの？と聞かれて)
「親父が酒飲んでるの。」

(31) *syootyuuo* *oyaziga* *nuudottowai.*
syootyuu=o oyazi{=ga/*=no/*=wa/*Ø} nom-tor-ru=to=wai
焼酎=ACC 親父{=NOM1/*=NOM2/*=TOP/*Ø} 飲む- PF-NPST＝FMN=SFP
(「なんか音がするけどどうしたの?」に対して)
「酒を親父が飲んでるんだよ。」

文焦点の文は、標準語と同様、主格標示しか許されず、主題標示が容認されない。これは、(30) の文を (31) のように語順操作した場合も、同様であった。

さらに、存現文の場合も標準語と同様、主題標示が容認されない。(32)、(34) に例を示す。

(32) *takusiii{no/*wa}* *kita.*
takusii{=no/*=wa} ki-ta
タクシー{=NOM2/*=TOP} 来る-PST
(タクシーが来るとは思えない、椎葉の拝殿で)
「タクシー来たよ。」

(33(=(27))) *takusii{no/wa}* *kitayo.*
takusii{=no/=wa} ki-ta=yo
タクシー{=NOM2/=TOP} 来る-PST=SFP
(タクシーを待っていて) 「あ、タクシー来たよ。」

(34) *zeniire{no/*ga/*wa/*Ø}* *arubai.*
zeniire{=no/*=ga/*=wa/*Ø} ar-ru=bai
財布{=NOM2/*=NOM1/*=TOP/*Ø } ある-NPST=SFP
(落ちている財布をみつけて) 「あ、財布があるよ。」

(35(=(28))) *zeniire{wa/?no/*ga/*Ø}* *kokee* *attahuu.*
zeniire{=wa/?=no/*=ga/*Ø} koko=ni ar-ta=huu
財布{=TOP/?=NOM2/*=NOM1/*Ø} ここ=DAT ある-PST=INFR
(探していた財布をみつけて) 「財布がここにあった。」

「探している」という文脈が設定されていない (32)、(34) を、「探している」という文脈が設定されている有題現象文 (33)、(35) と比較した場合、有題現象文においてのみ主題標示が容認されることがわかる。この比較から、尾前方言の主題標示においては、判断文・

現象文の区別は関与的でなく、主題の有無が関与的であることがわかる。

6.6. 項焦点

(36)	*goroo{ga/*no/*wa/*Ø}*	*sake*	*nuudottawai.*
	goroo{=ga/*=no/*=wa/*Ø}	sake	nom-tor-ta=wai
	五郎{=NOM1/*=NOM2/*=TOP/*Ø}	酒	飲む-PF-PST=SFP
	(誰が酒を飲んだの？に対して)		
	「五郎が酒を飲んだんだよ。」		

(37)	*neko{ga/no/*wa/*Ø}*	*ottatoyo.*	
	neko{=ga/=no/*=wa/*Ø}	or-ta=to=yo	
	猫{=NOM1/=NOM2/*=TOP/*Ø}	いる-PST=FMN=SFP	
	(「何がいるの?」に対して)		
	「猫がいたんだよ。」		

項焦点の場合、標準語と同様、主格標示のみが容認され、主題標示は容認されない。

7. おわりに

7.1. まとめ

尾前方言と標準語の主題標示の範囲についての図を以下に再掲する。

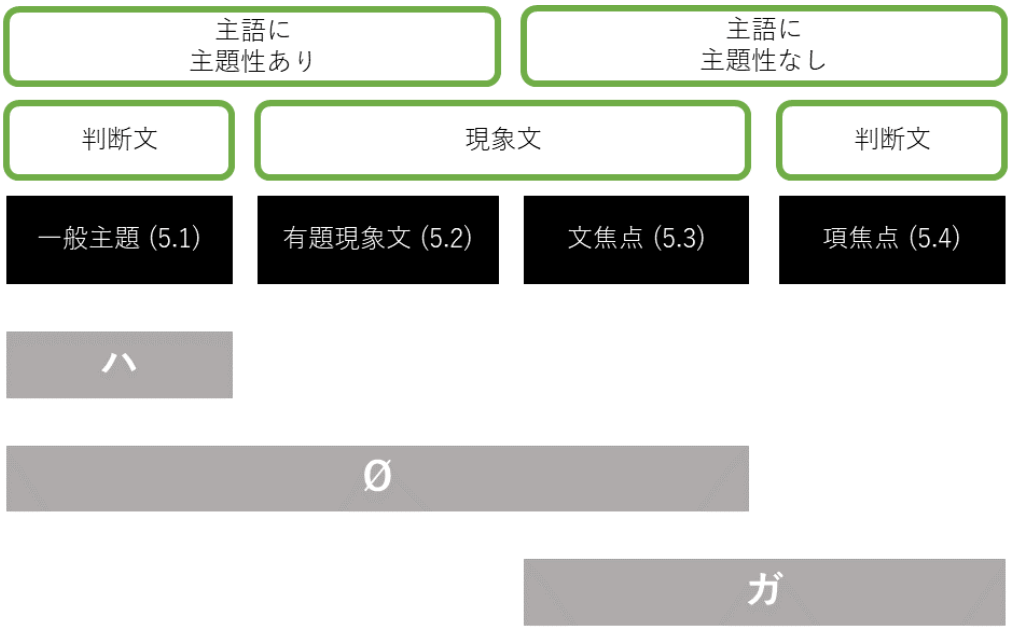

図 10. 標準語における主格標示と主題標示 (図 5 再掲)

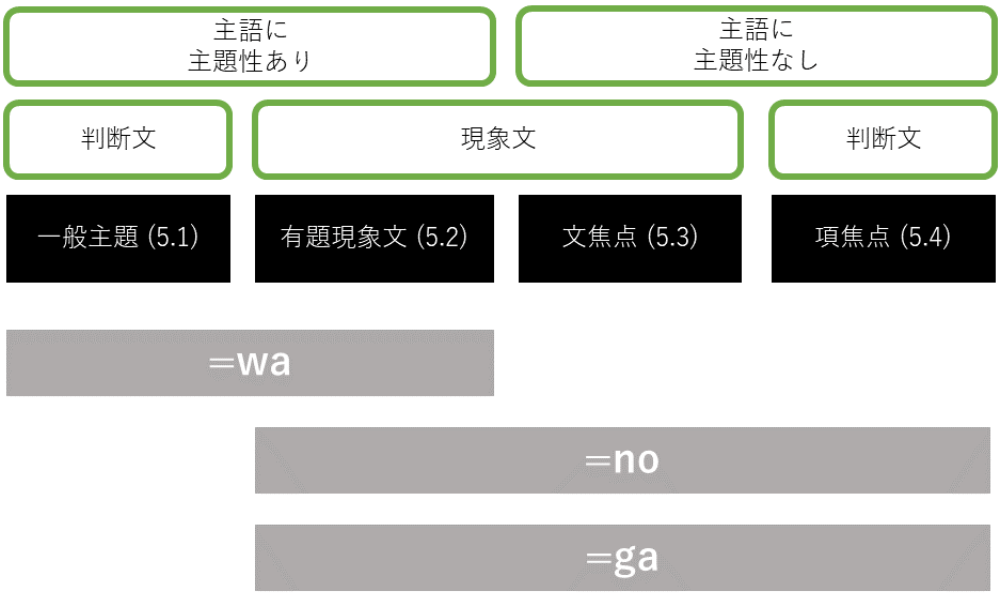

図 11. 尾前方言における主格標示と主題標示 (図 6 再掲)

図 10 に示すように、標準語においては、まず主題性の有無でハの使用が容認されるか否かが決まる。その上で現象文か判断文かによって、さらにハの使用範囲が狭められる。すなわち、有題文かつ判断文 (図中の「一般主題」の文) においてのみ、ハの使用が容認される。一方、図 11 に示すように、尾前方言においては、主題を持つか否かで=wa の使用が容認されるか否かが決まる点は標準語と同様である。しかし、現象文か判断文かは=wa の使用範囲を決定する要因とならない。つまり、有題文であればすべて、主題標示が可能となる。

以上のことをまとめると、標準語においては主題標示に、文の情報構造とモダリティが関与的であるのに対し、尾前方言においては、主題標示にモダリティは関与的でなく、情報構造のみが関わっていると捉えられる。

ここまでは主題標示の容認範囲について考察した。一方、主格標示の容認範囲についても、尾前方言は標準語と大きく異なることが明らかとなった。本論文の主眼は主題標示にあるため、主格標示については深く言及しないが、以下に簡単に指摘を行う。尾前方言の主格標示は、標準語とは異なり、主題標示と重なり合う部分がある。その部分が、有題現象文である。4.3.1 節で述べたように、有題現象文は、文全体を新情報として提示する現象文でありながら、主題を持つ文である。いわば情報構造的に、文焦点である面と述語焦点である面が共存する、特殊な文である。このような文の性質により、主格標示も主題標示も容認された可能性がある。

7.2. 他の話者との比較

今回の調査においては話者1名 (M氏) の主題標示の体系を明らかにすることを目指し、結果として図 9 に示すような主題標示と主格標示の範囲が明らかになった。この範囲を、他の2名の話者 (Y氏・F氏) と比較した結果を、表 5、表 6 に示す。

表 5. 主格標示

文の種類	一般主題	有題現象文	文焦点	項焦点
M氏	×	○	○	○
Y氏	未調査	○	○	○
F氏	×	○	○	○

表 6. 主題標示

文の種類	一般主題	有題現象文	文焦点	項焦点
M氏	○	○	×	×
Y氏	未調査	○	○	×
F氏	○	○	○	○?

(38) 〈文焦点で主題標示が容認される例〉

inu{ga/no/wa}	*oruwai.*
inu{=ga/=no/=wa}	or-ru=wai
犬{=NOM1/=NOM2/=TOP}	いる-NPST=SFP

(「物音が聞こえるけど。どうした?」に対して)
「犬がいるよ。」(Y氏の回答)

(39) 〈項焦点で主題標示が容認される例〉

*ziityan{wa/ga/*no}*	*nomiyottowai.*
ziityan{=wa/=ga/*=no}	nom-i-jor=to=wai
じいちゃん{=TOP/=NOM1/*=NOM2}	飲む-THM-IPF=FMN=SFP

(「おじいちゃんとお父さん、どっちが酒飲んでるの?」に対して)
「おじいちゃんが酒を飲んでるんだよ。」(F氏の回答)

主格標示については、Y氏について未調査の部分を除き、M氏と同様の結果となっている。一方、主題標示については、M氏と異なり、F氏・Y氏ともに文焦点において=wa を容認している。また、F氏については項焦点の文においても=wa を容認する。ここから、文のタイプによって、主題標示のされやすさが異なることがわかる。この結果についてま

とめたものが表 7 である。

表 7. 文のタイプと主題標示のされやすさ

文のタイプ	一般主題	有題現象文	文焦点	項焦点
主題標示のされやすさ	最もされやすい	>	>	最もされにくい

さらに、表 7 の結果から (40) に示す、主題標示のされやすさについての階層が導ける。階層の左側にある文のタイプほど、主語の主題性が高いことを表す。

(40) 【主題性の階層】
一般主題 > 有題現象文 > 文焦点 > 項焦点

(40) は、ある文のタイプで主題標示される場合、その文よりも左側にあるタイプの文でも主題標示されることを表す。

(40) に示す階層は、文のタイプによる主語の情報構造の違いにより説明できる。下地 (2017) をもとに、筆者が作成した表を以下に示す。

表 8. 情報構造と文のタイプの関連

	一般主題	有題現象文	文焦点	項焦点
主語の情報構造	+TOP -FOC -N-INFO	+TOP -FOC +N-INFO	-TOP -FOC +N-INFO	-TOP +FOC +N-INFO
主題からの距離	0	1	2	3
主題標示のされやすさ	最もされやすい	>	>	最もされにくい

「主語の情報構造」における[TOP]は主題、[FOC]は焦点、[N-INFO]は新情報を表す。「主題からの距離」は、一般主題の文における主語の素性 ([+TOP]、[-FOC]、[-N-INFO]) を基準とし、それぞれの文の素性について、一般主題の文の素性と異なる素性の数を示したものである。これらに、表 7 に示した「尾前方言の主題標示のされやすさ」を加えると、「主題からの距離」の数値が高くなるほど、主題標示がされづらくなることがわかる。

(40) に示す主題性の階層の信頼性を高めるため、より多くの話者を対象に調査を行うべきである。さらに、他方言についても同様の階層が成立するか、今後の検討の余地がある。

7.3. 今後の課題

7.3.1. 問題となる例

本論文において、「文焦点 (主題を持たない文) 」に分類される例文において、=wa の使用が容認される例があった。(43) の例である。

(41(=(30))) *oyazi{ga/*no/*wa/*Ø}* *syootyuu.*
oyazi{=ga/*=no/*=wa/*Ø} syootyuu
親父{=NOM1/*=NOM2/*=TOP/*Ø} 焼酎

nuudoruwai.
nom-tor-ru=wai
飲む-PF-NPST=SFP
(電話で、何か騒がしいけどどうしたの？と聞かれて)
「親父が酒飲んでるの。」

(42(=(31))) *syootyuuo* *oyaziga* *nuudottowai.*
syootyuu=o oyazi{=ga/*=no/*=wa/*Ø} nom-tor-ru=to=wai
焼酎=ACC 親父{=NOM1/*NOM2/*TOP/*Ø} 飲む-PF-NPST＝FMN=SFP
(「なんか音がするけどどうしたの?」に対して)
「酒を親父が飲んでるんだよ。」

(43) *attino* *heyade* *syootyuuo*
atti=no heya=de syootyuu=o
あっち=GEN 部屋=LOC 焼酎=ACC

*oyazi{ga/no/?wa/*Ø}* *nuudottowai.*
oyazi{=ga/=no/?=wa/*Ø} nom-tor-ru=to=wai
親父{=NOM1/=NOM2/?=TOP/*Ø} 飲む-PF-NPST=FMN=SFP
(「なんか音がするけどどうしたの?」に対して)
「あっちの部屋で酒を、親父が飲んでるんだよ。」

(41) に対して、語順のみを操作した、(42) においては主題標示が容認されない。一方、(42) の例文に「あっちの部屋で」という情報を付け加えた(43)の例では、ハの使用が容認された場合があった。この点について、情報構造の違いが関わっている可能性がある。すなわち、(42)、(43) においては、目的語-主語-動詞の語順になったことで、主語-目的語-動

詞のときよりも、目的語が焦点、主語が前提と見なされ、(41) の例文よりも主語の主題性が上がった可能性がある。さらに、 (43) では「あっちの部屋で」という要素が新情報的に解釈されたことで、(42) よりも更に主語の主題性が上がり、ハの使用が容認された可能性がある。つまり、(43) の文は、純粋な文焦点の文ではないため、ハの使用が容認されたとみるべきである。

ただし､再調査において､文焦点の例におけるハの使用が一切容認されなかったことや、個人差について調べ切れていないことを踏まえると、この点については、今後更なるデータを採取し、検証することが必要である。

7.3.2. 有題現象文と文焦点

本論文における「有題現象文」と「文焦点」の区別は曖昧なものである。そのため、有題現象文とみるべきか、文焦点とみるべきかが曖昧な例も存在する。

(44)

ara	*yubiwa{ga/no/wa/Ø}*	*attawai.*
ara	yubiwa{=ga/=no/=wa/Ø}	ar-ta=wai
INTJ	指輪{=NOM1/=NOM2/=TOP/Ø}	ある-PST=SFP

(たぶん体育館で指輪を落としただろう、とは思っている。体育館内の落とし物が集められているところに自分の指輪があるのを見つけて)
「あ、(わたしの) 指輪があった。」

(45)

a	*yubiwa{no/*wa}*	*attahuu.*
a	yubiwa{=no/*=wa}	ar-ta=huu
INTJ	指輪{=NOM2/*=TOP}	ある-PST=INFR

(たぶん体育館で指輪を落としただろう、とは思っている。体育館内の落とし物が集められているところに自分の指輪があるのを見つけて)
「あ、(わたしの) 指輪があった。」

(44)、(45) は、同様の状況設定を行った場合に、主題標示の可否が分かれた例である。

このような例文については更に詳細な条件を設定し、有題現象文と文焦点を確実に区別できるようにした上で、調査を行うべきである。

7.3.3. 対比焦点の主題標示

対比焦点の場合に、ハの使用が容認されることがあった。(46) の例である。

(46)　*nekozya*　*noozi*　*inu{no/wa/*ga}*

neko=de=wa　nak-u-zi　犬{=no/=wa/*=ga}

猫=COP=TOP　ない-INF-NEG.INF　犬{=NOM2/=TOP/*=NOM1}

oruwai.

or-ru=to=wai

いる-NPST=FMN=SFP

(「猫がいるの?」に対して)

「猫じゃなくて犬がいるんだよ。」

しかし、(46) 以外に、標準語ではハが現れ得ないとされている対比焦点の例文を調べられておらず、話者が解釈を誤った可能性も否定できない。そのため、本稿においては (46) の例については現象の報告に留め、分析については今後の課題とする。

7.3.4. その他調査が不十分な点

調査内容について、今回の調査において、イル・アル以外の動詞をほとんど調査していないため、動詞の種類によって主題標示のふるまいに差がでるのかということについて、今後の調査の余地がある。また、主格助詞や無助詞との関係について、十分に考察が出来たとは言い難いため、今後の課題としたい。また、構造が特殊な文焦点の例において、主題標示が許容された場合があったが､その妥当性について十分に検証しきれていないため、今後の調査の余地がある。

調査方法について、発話の前提となる状況の説明が十分でなかったと考えられる点があるため、情報構造を調査する際にどのようにすれば話者に負担なく、的確に発話の状況を伝えられるのか、考えていくべきである。また、今回は調査対象とした話者が少なく、どれほど個人差があるのかということについても調査の余地がある。また、本論文において扱った現象について､今回の調査は 1 人の話者を中心とした elicitation によるものであり、自然談話による観察が不十分であるため、自然談話の中で存現文がどのようなふるまいをするのかということについても、観察すべきである。

7.4. 今後の研究への提言

従来の方言研究では、情報構造やモダリティについての標準語との差や、方言ごとの差が重要視されてこなかった。しかし、本論文が指摘したように、情報構造やモダリティと関連のある主題標示や主格標示の枠組みが、標準語と尾前方言では異なる。また、尾前方言とその他の方言においても、異なる枠組みが存在する可能性がある。そのため、今後、

情報構造とモダリティを区別した方言調査をしていくべきである。

これまでの研究において、一般的に「イル」「アル」という動詞が用いられている文は存現文にふくまれ、それらは一様に文焦点の文であり、「ハもガも使えない文」であるとされてきた。しかし、本論文において「有題現象文」を定義したように、文脈によっては有題現象文とみなすべき文が、従来の存現文には存在する。よって、本論文のように、モダリティの観点から、従来「存現文」として扱われてきた文を捉えなおすべきである。さらに、少なくとも尾前方言において、それらの主語の主題標示のされやすさには差があることがわかった。他方言について、同様の現象があるかどうかについては、今後の調査の余地がある。

参照文献

Foley, William (2007) A typology of information packaging in the clause. In: Timothy Shopen (ed.) *Language Typology and Syntactic Description* (*2nd edition)*, 362-446. New York: Cambridge University Press.

岩元実 (1983) 「宮崎県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『講座方言学 9―九州地方の方言―』297-293. 東京: 国書刊行会.

久野暲 (1973) 『日本文法研究』東京: 大修館書店.

黒崎佐二子 (2003) 「無助詞文の分類と段階性」『早稲田大学日本語教育研究』2: 77-93.

Lambrecht, Knud (1994) *Information structure and sentence form: Topic, focus, and the mental representations of discourse referents*. New York: Cambridge University Press.

仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』東京: ひつじ書房.

野田尚史 (1996) 『新日本文法選書 1「は」と「が」』東京: くろしお出版.

尾上圭介 (1996) 「主語にハもガも使えない文について」認知科学学会第 13 回ワークショップ「日本語の助詞の有無をめぐって」ハンドアウト.

大谷博美 (1995) 「ハとガと Ø-ハもガも使えない文」宮島達夫・仁田義雄 (編) 『日本語類義表現の文法 (上) 単文編』287-296. 東京: くろしお出版.

坂井美日 (2019) 「熊本市方言の格配列と自動詞分裂」竹内史郎・下地理則 (編) 『日本語の格標示と分裂自動詞性』37-66. 東京: くろしお出版.

下地理則 (2016a) 「1. 音素論と形態音韻論の中間報告」下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日 (編) 『尾前調査班 中間報告書―宮崎県椎葉村尾前方言簡易語彙集と文法概説―』7-14. 東京: 国立国語研究所.

下地理則 (2016b) 「3. 格体系記述の中間報告」下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日 (編) 『尾前調査班 中間報告書―宮崎県椎葉村尾前方言簡易語彙集と文法概説―』34-52. 東京: 国立国語研究所.

下地理則 (2017) 「日琉諸語における分裂自動詞性と有標主格性」成城学園創立 100 周年・大学院文学研究科創設 50 周年記念・国立国語研究所共催シンポジウム「私たちの知らない<日本語>―琉球・九州・本州の方言と格標示―」. 成城大学, 2017 年 7 月.

下地理則 (2019) 「現代日本共通語 (口語) における主語の格標示と分裂自動詞性」竹内史郎・下地理則 (編) 『日本語の格標示と分裂自動詞性』1-36. 東京: くろしお出版.

下地理則・坂井美日・小川晋史 (2016) 「0. はじめに」下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日 (編) 『尾前調査班 中間報告書―宮崎県椎葉村尾前方言簡易語彙集と文法概説―』1-6. 東京: 国立国語研究所.

寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味 III』東京: くろしお出版.

付録 1 (M 氏の調査データ)

W/G/N は、それぞれ=wa、=ga、=no に対応しており、未調査の場合は括弧を付している。表中の下線は主語を表す。

【一般主題】

(電話で「親父いま何してる?」と聞かれて)「親父は酒飲んでるよ。」	oyaziwa syootyuu nuudoruwai	W/(G) /(N)
「お前、太った?」	waryaa koetanee	W/*G/*N
「お前、髪の毛切った?」	waryaa kamuge kittakai	W/*G/*N

【有題現象文】

(母親に電話を掛けたら、兄らしき人の声が聞こえて)「お兄ちゃんいるの?」	antyanwa orutoyaya antyanga ottoya antyanno ottoya	W/G/N
(お兄ちゃんに話したいことがあるんだけど、と前置きして)「お兄ちゃんいる?」	antyanga oruka antyanno oruka antyanwa oruka	W/G/N
(兄の話を散々して)「お兄ちゃんいる?」	ima niityanwa oruto	W/*G/*N
(今日お兄ちゃんいるよ、と母親に言われて)「え、お兄ちゃんいるの?」	niityanno ottato niityanga ottato	*W/G/N
(道端で、唐突に)「タバコある?」	tabakaa arukai tabakono arukai tabakoga arukai	W/G/N
(煙草をふかしてる人に対して or 喫煙所で)「タバコある?」	tabakaa arukai tabakono arukai tabakoga arukai	W/G/N
(どのタバコが美味いかを話していて)「タバコが吸いたくなってきたなぁ、タバコある?」	tabakaa arukai tabakono arukai tabakoga arukai	W/G/N
(友人に対して唐突に)「カニいる?」	kanyaa orukai	W/*G/(N)

「わたしの指輪あった?」	orega yubiwaa attakai orega yubiwaga attakai orega yubiwa attakai	W/G/(N)
「わたしのぬいぐるみあった?」	orega nuigurumi attakai orega nuigurumyaa attakai	W/*G/*N
「君の家には猫いる?」	waregaenya nekono orukai waregaenya nekaa orukai waregaenya nekoga orukai	W/G/N
「今日は(もう)猫いる?」	kyuuwa nekaa orukai	W/(G)/*N
「お兄ちゃんいる?」	antyanwa orukai antyanga orukai antyanno orukai	W/G/N
「(道端で唐突に)タバコある?」	tabako aruya tabakowa aruya tabakono aruya	W/(G)/N
「(この前私があげた)タバコある?」	tabakono aru tabakaa aru	W/*G/N
「(道端で唐突に)タバコある?」	tabakono arukai tabakaa arukai	W/*G/N
「お兄ちゃんいる?」	antyanwa oru antyanga oru antyanno oru	W/G/N
「弟いる?」	otoutowa oru	W/*G/*N
(母親に電話を掛けたら、兄らしき人の声が聞こえて)「お兄ちゃんいるの?」	antyan oru antyanwa oru antyanga oru antyanno oru	W/G/N
(お兄ちゃんに用事があるんだけどと前置きして)「お兄ちゃんいる?」	antyanni yooziga arunndakedo antyanwa oru	W/*G/*N
「犬いる?」	inaa oru	W/*G/*N
「今、犬いる?」	inaa oru	W/*G/*N
「南の島って、犬いる?」	inaa oru inuno oru	W/*G/N
「(探しながら)タクシーいますか?」	takusiiwa oru takusii oru	W/*G/*N

(友人がお下がりの服を着ていて)「お兄ちゃんいるの?」	antyanwa orukai antyanno orukai antyanwa oruya antyanno oruya	W/*G/N
(一人っ子だと思ってたのに,「にいちゃんが就職したんだよ」と言っているのを聞いて,びっくりして)「あんたお兄ちゃんいるの?」	antyanno orutokai antyanwa orutokai	W/*G/N
(友人に対して)「(私がこの前あげた)タバコある?」	tabakaa arukai tabakaa aru tabakaa aruya	W/*G/*N
(家に招いた友人に、自分が外国で買ってきたタバコをお土産であげようとして) 「その袋開けてみて。タバコある?」	(sono hukuro akete misai) tabakono ittorukai tabakaa ittorukai tabakaa arukai tabakono arukai	W/*G/N
(ゴミ箱を覗いている友人に)「タバコある?」	(gomibakono nakyaa) tabakaa arukai tabakaa aruya tabakono arukai tabakono aruya	W/*G/N
(お兄ちゃんを探していて、やっと見つけて)「お兄ちゃんがいた。」	ara antyanwa ottawai	W/*G/*N
(椎葉で野良犬をみつけて)「あ、野良犬がいる。」	agyantokee sangyainuno oruwai agyantokee sangyainna oruwai	W/*G/N
(探していた財布をみつけて)「あ、財布あった。」	zeniiryaa kokee attahuu zeniireno kokee attahuu	W/*G/N
(タクシーを探していて)「あ、タクシーいたよ。」	takusiiga otta takusiiwa otta takusiino otta	W/G/N
(探しながら)「タクシーいた。よかった。」	takusii otta takusiino otta takusiiwa otta takusiiga otta	W/G/N

（さっき乗ったタクシーに財布を忘れた。タクシーの営業所に電話をかけて、急いで営業所まで行く。自分の財布があったのを確認して、友人に言う。)「財布あった、よかった。」	zeniireno atta.yokatta zeniiryaa atta.yokatta	W/*G/N
(都会のタクシー乗り場で)「タクシー来たよ。」	takusiino kitayo takusiiwa kitayo	W/(G)/N
(椎葉のタクシー乗り場で)「タクシー来たよ。」	takusiino kitayo takusiiwa kitayo	W/(G)/N

【有題現象文とも文焦点とも解釈できる例】

(たぶん体育館で指輪を落としただろう、とは思っている。体育館内の落とし物が集められているところに自分の指輪があるのを見つけて)「あ、(わたしの)指輪がある。」	a yubiwano attahuu	*W/*G/N
(たぶん体育館で指輪を落としただろう、とは思っている。体育館内の落とし物が集められているところに自分の指輪があるのを見つけて)「あ、(わたしの)指輪がある。」	aa yubiwa attawai aa yubiwaga attawai aa yubiwano attawai aa yubiwawa attawai	W/G/N
(自分が昨日売った指輪が次の日店頭に並んでいるのを見て)「あ、(もう)(わたしの)指輪があるよ。」	mou orega yubiwaa aruwai mou orega yubiwaga aruwai	W/G/*N

(庭にいつもくる猫が、いつもより早く来ているのをみつけて)「あ、猫、(もう)いるよ。」	kyuuwa erai hayoo nekono oruwai kyuuwa erai hayoo sangyanekaa oruwai	W/*G/N
「もうわたしのぬいぐるみあるよ。」	orega nuigurumyaa aruwai orega nuigurumino aruwai	W/*G/N
(庭によくくる猫が来ているのをみつけて唐突に)「あ、(いつもの)猫がいるよ。」	akkenya nekono oruwai	*W/*G/N
(庭によくくる猫が来ているのをみつけて唐突に)「あ、(いつもの)猫がいるよ。」	tanbii ano nekono oruwai tanbii ano nekaa oruwai	W/*G/N
(自分は兄と一緒に暮らしていて、道を歩いていると時々兄に会うことがある。友人と道を歩いていて、自分の兄の姿を見つけて唐突に)「あ、お兄ちゃんがいる。」	ara antyanno oru	*W/*G/N
(自分は兄と一緒に暮らしていて、道を歩いていると時々兄に会うことがある。友人と道を歩いていて、建物の中に自分の兄の姿を見つけて唐突に)「あ、お兄ちゃんがいる。」	akkee antyanno oruwai akkee antyanwa oruwai akkee antyan oruwai	W/*G/N
(道を歩いていて、隣を歩いている友人の足元にタバコが落ちているのを見つけて唐突に)「あ、タバコあるよ。」	asimotie tabakono aruwai	*W/*G/N
(さっき吸い殻を捨てたはずなのに、既に吸い殻が灰皿にたまっていて)「あ、(もう)タバコあるよ。」	mata tabakono aruwai mata tabakaa aruwai	W/*G/N
(自分の家を見たら一緒に住んでる兄の姿が見えて、お兄ちゃん先に帰ってきてるんだと思って)「あ、お兄ちゃんいる。」	ara antyan oru ara antyanwa oru ara antyanno oruhuu	W/*G/N
(相手のかさぶたを指して)「君スネにかさぶたあるんだね。」	waryaa suneni kasabatino deketorunee	*W/*G/N

(相手に自分のかさぶたを見せて)「俺スネにかさぶたあるんだよ。」	orenya kasabatino deketotto zyaruga	*W/*G/N
(相手のかさぶたを指して)「君スネにかさぶたあるよ。」	warega sunenyaa kasabatino aruze	*W/*G/N
「君、お兄ちゃんいるよね。」(名前なんだっけ?)	waryaa antyanno oruyone waryaa antyanga oruyone waryaa antyanwa oruyone waryaa antyan oruyone	W/G/N
「君、犬いるよね。」(名前なんだっけ?)	warega enya inuno orudooga	*W/*G/N
「君、猫いるよね。」(名前なんだっけ?)	waregaenya nekono orudooga waregaenya nekoga orudooga waregaenya nekaa orudooga	W/G/N
「うち、お兄ちゃんいるんだよ。」	orenyaa antyanga orutowai orenyaa antyanno orutowai orenyaa antyanwa orutowai	W/G/N
「あの子にはお兄ちゃんがいるんだよ。」	anokonyaa antyanno orutoyo anokonyaa antyanga orutoyo anokonyaa antyanwa orutoyo	W/G/N
「このクラスの子達の半分の子にはお兄ちゃんがいる。」	kono kurasunyaa hanbunwa kyoozyaano oruhuu kono kurasunyaa hanbunwa kyoozyaaga oruhuu	*W/G/N
「君、猫いるよね。名前なんだっけ?」	waregaenyaa nekono orudooga	*W/*G/N
「うち、猫いるんだよ。」	oregaenya nekono oruze oregaenya nekaa oruze	W/*G/N

「あそこの爺さんの家には猫がいるんだよ。」	ano ziisangaenyaa nekono oruttyuuwai	*W/*G/N
「ここら辺のうちには大体猫がいる。」	kokohenno manboonya taigyaa nekono oruwai kokohenno manboonya taigyaa nekoga oruwai konohenno manboonya taigyaa nekaa oruwai	W/G/N
(お前、車持ってたよな?あれもう売ったのか?と聞かれて)「いや、まだ車あるよ。」	maada kurumaa aruwai	W/*G/*N
(前は免許無かったけど、この間取った、という話をしている中で)「だからほら、あそこに(俺の)車あるよ。」	akke orega kurumano arudooga akke orega kurumaa arudooga akke orega kurumaga arudooga	W/G/N
「田中さんち、車あるよね?」(なのになんで、こんな遠いところまで自転車で来てるんだ?)	tanakasangaenyaa kurumaa arutieene tanakasangaenyaa kurumano arutieene	W/*G/N
「ここら辺のうちには大体車がある。」	kokohennyaa taigyaa kurumano aru kokohennyaa taigyaa kurumaga aru kokohennyaa taigyaa kurumaa aru	W/G/N
(自分は兄と一緒に暮らしていて、道を歩いていると時々兄に会うことがある。私に兄がいることを知っている友人と道を歩いていて、道端に自分の兄の姿を見つけて唐突に)「あ、お兄ちゃんがいる。」	ara antyanno oru	*W/*G/N

(自分は兄と暮らしておらず、道中兄と会うことも滅多にない。私に兄がいることを知っている友人と道を歩いていて、道端に兄がいるのをみつけて)「あ、あんなところにお兄ちゃんがいる。」	agyantokee antyanwa oru agyantokee antyanga oru	W/G/*N
(自分は兄と一緒に暮らしていて、道を歩いていると時々兄に会うことがある。私に兄がいることを知らない友人と道を歩いていて、道端に自分の兄の姿を見つけて唐突に)「あ、お兄ちゃんがいる。」	ara antyanno ottawai	*W/*G/N
(道を歩いていて)「あ、野良猫がいる。」	ara sangyanekono oruwai ara sangyanekaa oruwai	W/*G/N
(道を歩いていて)「あ、虫がいる。」	ara musino oruwai	*W/*G/N
(友人と電話をしながら、ふと外を見て)「あ、野良猫がいる。」	a nekono oru a nekaa oruwai	W/*G/N
「冬になるとよく野良猫が来る。」	huyuni nareba nekono kuru	*W/*G/N
(この駐車場にはよく観光客のレンタカーが泊まっている。それを知っている友人と道を歩いていて、駐車場に車があるのをみつけて)「あ、また車があるよ。」	ara mata kurumano aruhuu ara mata kurumaa aruhuu	W/*G/N
(この駐車場にはよく観光客のレンタカーが泊まっている。それを知らない友人と道を歩いていて、駐車場に車があるのをみつけて)「あ、また車がある。」	a mata kurumano aru	*W/*G/N
(初めて祭りに来た友人に、車多いねと言われて)「この季節になると多くの車が来るよ。」	kono kiseti naryaa zunbyaano kurumaga kuruwai kono kiseti naryaa zunbyaano kurumano kuruwai	*W/G/N
(都会のタクシー乗り場で)「タクシー来たよ。」	takusiino kitawai takusiiwa kitawai	W/*G/N

(タクシーが滅多に来ない椎葉で)「タクシー来たよ。」	takusiino kita takusiiwa kita	W/*G/N
(救急車を呼んでて)「救急車が来たよ。」	kyuukyuusyano kitawai kyuukyuusyawa kitabai	W/*G/N
(救急車をみつけて)「救急車が来たよ。」	kyuukyuusyano kitawai kyuukyuusyawa kitawai	W/*G/N
(さっき拝殿に来た蝶々が舞い戻ってきて)「あ、またさっきの蝶々がいる。」	mata haberyoono ittekitawai mata haberyooga ittekitawai mata haberyoowa ittekitawai	W/G/N
(今年初の蝶々をみつけて)「あ、蝶々がいる。」	haberyoono syakaittekita haberyoowa syakaittekita haberyooga syakaittekita	W/G/N
「あんなところに蝶々がいる。」	agyantokee haberyoono oruwai agyantokee haberyooga oruwai	*W/G/N
「あ、お兄ちゃんいる。」	antyanno oru antyanwa oru	W/*G/N
「あ、お兄ちゃんいる。」	antyanga oru antyanwa oru antyanno oru	W/G/N
「お兄ちゃんいた。」	antyanwa otta antyanno otta	W/*G/N
「そういえば昨日夜公園に小さい子がいたんだよ。」	kinyuu yoru　kooenni komyaakoga ottatoyo kinyuu yoru kooenni komyaakono ottatoyo	*W/G/N
「そういえば昨日公園に小さい子がいたんだよ。」	kinyuu kooenni komyaakono ottatoyo kinyuu kooenni komyaakoga ottatoyo	*W/G/N

「あの人は一人っ子じゃないよ。お兄ちゃんがいるから。」	antyanno orukara antyanga orukara	*W/G/N
「昨日夜公園に小さい子がいたんだろうね。」	kinyuu yoru kooenni komyaa kono otta doo nee kinyuu yoru kooenni komyaa koga otta doo nee	*W/G/N
「あの子は甘えん坊だから、多分お兄ちゃんがいるんだねえ。」	antyanwa oru doo nee antyanno oru doo nee antyanga oru doo nee	W/G/N
(さっき拝殿の外にいた犬が、まだうろちょろしているのを見つけて)「あ、犬いる。」	inuwa oru inaa oru	W/G/N
(普段犬がいないようなところで犬をみつけて)「あ、犬いる。」	inuno oru	*W/*G/N
「あ、犬いた。」	inaa otta	W/*G/*N
(びっくりして)「そういえば昨日家に帰ったら家の中に犬がいたんだよ。」	inno ottatoyo	*W/*G/N
(よくあることとして)「そういえば昨日家に帰ったら庭に犬がいたんだよ。」	inuno otta	*W/*G/N
「この家は，泥棒がいても入ろうとしないと思う。犬がいるから。」	inno orukara inuga orukara	*W/G/N
「あ、タクシーいる。乗ろう。」	takusiino oru	*W/*G/N
「あ、タクシーいる。乗ろう。」	takusiiga oru takusiino oru	*W/G/N
「ここは多分ホテルの出入り口だよ、タクシーがいるから。」	takusiiga orukara takusiino orukara	*W/G/N
(タクシーを探していて)「あ、タクシーいる。乗ろう。」	takusiiwa oru takusii oru	W/*G/*N

【文焦点】

（にやにやしていたら「どうしたの？」と聞かれて)「実は孫が生まれたんだ。」	kinyuu magono dekitakee uresiitowai	*W/*G/N
(「物音が聞こえるけど。どうした?」に対して)「犬がいるよ。」	sokee inno ottatoyo	*W/*G/N
(電話で、何か騒がしいけどどうしたの?と聞かれて)「親父が酒飲んでる。」	oyaziga syootyuu nuudoruwai	*W/G/*N
(自分の家をふと見ると、庭に泥棒がいて驚いて、唐突に)「あ、泥棒がいる!」	a doroboono oru a nusutoboono oru a nusutobooga oru	*W/G/N
(自分は兄と暮らしておらず、道中兄と会うことも滅多にない。私に兄がいることを知らない友人と道を歩いていて、道端に兄がいるのをみつけて)「あ、あんなところにお兄ちゃんがいる。」	agyantokee antyanwa oruwai agyantokee antyanno oruwai	W/*G/N
(日向で野良犬を見つけて)「あ、野良犬がいる。」	agyantokee sangyainuno oruwai	*W/*G/N
(落ちてた財布をみつけて)「あ、財布が落ちてる。」	zeniireno koketoruga	*W/*G/N
(落ちてた財布をみつけて)「あ、財布がある。」	zeniireno arubai	*W/*G/N
(遠方にいる太郎をみつけて)「あ、こんなところに太郎がいる。」	kogyantokee tarookunwa ottatokai kogyantokee tarookunga ottatokai kogyantokee tarookunno ottatokai	W/G/N
(「なんか音がするけどどうしたの?」に対して)「親父が酒飲んでるんだよ。」	oyaziga syootyu nuudotto wai	*W/G/*N

(「なんか音がするけどどうしたの?」に対して)「酒を親父が飲んでるんだよ。」	syootyuuo oyaziga nuudotto wai syootyuuo oyazino nuudottowai	*W/G/N
(「なんか音がするけどどうしたの?」に対して)「あっちの部屋で酒を親父が飲んでるんだよ。」	attino heyade syootyuuo oyaziga nuudottowai attino heyade syootyuuo oyaziwa nuudottowai attino heyade syootyuuo oyazino nuudottowai	W/G/N
(「なんか音がするけどどうしたの?」に対して)「あっちの部屋で酒を知らない爺さんが飲んでるんだよ。」	attino heyade syootyuuo siran ziisannga nuudottowai attino heyade syootyuuo siran ziisannno nuudottowai attino heyade syootyuuo siran ziisannwa nuudottowai	W/G/N
「あ、タクシーいる。なんでだろう。」	takusiino oru. nasitezyarookaa	*W/*G/N
(タクシーが滅多に来ない椎葉で)「タクシー来たよ。」	takusiino kita.hittamagatta	*W/*G/N
(「何か音がするけどどうしたの?」に対して)「あっちの部屋で、親父が酒を飲んでるんだよ。」	attino heyade oyaziga syootyuuoba nuudottowai attino heyade oyazino syootyuuoba nuudottowai	*W/G/N
(「何か音がするけどどうしたの?」に対して)「親父が酒を、あっちの部屋で飲んでるんだよ。」	oyaziga syootyuuoba attino heyade nuudottowai oyazino syootuyuoba attino heyade nuudottowai	*W/G/N
(「何か音がするけどどうしたの?に対して」)「酒を親父が、あっちの部屋で飲んでるんだよ。」	syootyuuo oyaziga attino heyade nuudottowai	*W/G/*N
(「何か音がするけどどうしたの?に対して」)「あっちの部屋で、親父が酒を飲んでるんだよ。」	attino heyade oyaziga syootyuuoba nuudottowai attino heyade oyazino syootyuuoba nuudottowai	*W/G/N

(「何か音がするけどどうしたの?に対して」)「親父が材木で犬小屋をつくってるんだよ。」	oyaziga zaimokude inugoyao tukuttottowai oyazino zaimokude inugoyao tukuttotowai	*W/G/N
(「何か音がするけどどうしたの?に対して」)「材木で親父が犬小屋をつくってるんだよ。」	zaimokude oyaziga inugoyao tukuttottowai	*W/G/*N
(「何か音がするけどどうしたの?に対して」)「(寄合で)親父が酒を飲んでるんだよ。」	yoriaide oyaziga syootyuu nuudottowai	*W/G/*N

【項焦点】

(「何がいる?」に対して)「犬がいるよ。」	inuno otta	*W/*G/N
(「何がいる?」に対して)「猫がいるよ。」	nekoga ottatoyo nekono ottatoyo	*W/G/N
(「なんかいる?」に対して)「カニがいる。」【意外】	kanino oruwai	*W/*G/N
(なんかいる?に対して)「カニがいる。」	kanino oruwai	*W/*G/N
(電話で「(なんか宴会してるみたいだけど)誰が酒飲んでるの?」と聞かれて)「親父が酒飲んでるよ。」	oyaziga nomiyoruwai	*W/G/*N
(「誰が酒を飲んだの?」に対して)「五郎が酒を飲んだんだよ。」	gorooga sake nuudottawai	*W/G/*N
「猫じゃなくて犬がいるんだよ。」	nekozya noozi inuno ottowai nekozya noozi inuwa ottowai	W/*G/N

【その他】

去年尾前では子供が何人も生まれた	kodomono nanninmo umareta	*W/G/*N

(行ったことが無いお店に友達と一緒に行きながら)「良いもの、なんかあるかな。」	yokamonno nanka arudooka	*W/(G)/*N
(朝市に友達と一緒に行きながら)「(もう)なんかあるかな.。」	asa hayaakee nanka arudooka	*W/*G/(N)
(友達と一緒に川に行くことになって、その友達に対して)「(川に)なんかいるかな。」	kawanya　nanika orudooka	*W/(G)/(N)
(友達と一緒に川に行くことになって、その友達に対して)「(川に)何がいるかな。」	kawanya nanino orudooka	*W/(G)/N
「(朝、前日にしかけを設置していた場所に向かう途中で友達に対して)「(もう)なんかいるかな。」	nanika iddorudooka	*W/(G)/(N)
(朝、前日にしかけを設置していた場所に向かう途中で友達に対して)「(もう)何がいるかな。」	nanino iddorudooka	*W/(G)/N
(友人と公園に遊びに行く途中に、友人に対して)「誰かいるかな。」	kooennya dareka orudooka	*W/*G/(N)
(友人と公園に遊びに行く途中に、友人に対して)「誰がいるかな。」	kooennya darega orudooka	(W)/G/(N)
(友人と公園に遊びに行く途中に、友人に対して)「(もう)誰かいるかな。」	mou kooennyaa dareka orudooka	*W/(G)/(N)
(いつもより早い時間に友人と学校に向かっている途中、友人に対して)「(もう)誰かいるかな。」	mou dareka orudooka	*W/*G/*N
「もう公園には誰かいるかな。」	mou kooennya dareka orudooka	*W/*G/(N)

「(遠くの道の上になんか物体があるのを見つけて)「あ、なんかあるよ。」	akkenya nanka aruga nanzyaroka akkena nanikaga aruga nanzyaroka	*W/G/(N)
(一日前に設置された不用品回収箱の中を覗いて)「あ、(もう)なんかあるよ。」	mou nanika aruwai	(W)/*G/(N)
(唐突に、庭の草が揺れているのを見つけて)「あ、何かいるよ。」	nanka oruwai	*W/*G/(N)
(仕掛けに獲物がかかっている様子を見て)「あ、(もう)何かいるよ。」	mou nanika oruwai mou nanikaga oruwai	*W/G/*N
(友人と二人で餌を設置した。少し時間がたって友人だけが餌を見に行き、自分は友人を待っていた。餌場から戻ってきた友人に対して)「もう何かいる?」	mou nanika orukai	*W/*G/(N)
「川には何がいるだろうか。」	kawanyaa nanino orudooka	*W/(G)/N
(外を歩いていて、家の中に人影があるのに気づいて唐突に)「あ、(お父さんか、お母さんか、お兄ちゃんかは分からないけれど)誰かいるよ。」	akkenya dareka oruwai	*W/*G/(N)
【意外】(自分が一番最初に帰るだろうと思っていたのに、既に家に人影があるのをみて)「あ、誰かいる。」	a darekaga oruwai	*W/G/(N)
(何人かで公園で遊ぶ約束をしている。友達と公園に行ったら人影が見えて)「あ、(もう)誰かいるよ。」	mou dareka oruwai	*W/*G/(N)
「もう誰かいるかな。」	mou dareka orukai	*W/*G/*N
「あなたの家には猫はいないけど、犬いる?」	waregaenya nekaa orandomo inna orukai waregaenya nekaa orandomo inno orukai	W/(G)/N
「君の弟はやせたみたいだけど、お前は太った?」	warega otootowa yasetorudomoga waryaa koetanee	W/*G/*N

付録 2 (M 氏以外の話者の調査データ)

W/G/N は、それぞれ=wa、=ga、=no に対応しており、未調査の場合は括弧を付している。表中の下線は主語を表す。

右端の列のアルファベットは、その回答を得た話者を表す。なお、F 氏について、「●F 氏」は、M 氏と共に調査した際、M 氏と異なる回答を得たことを意味し、「F 氏」は、M 氏と同様の回答を得たことを意味する。

【一般主題】

F 氏	(電話で「親父いま何してる？」と聞かれて)「親父は酒飲んでるよ。」	oyaziwa syootyuu nuudoruwai	W/(G)/(N)
F 氏	「お前、太った?」	waryaa koetanee	W/*G/*N
F 氏	「お前、髪の毛切った?」	waryaa kamuge kitta kai	W/*G/*N

【有題現象文】

T 氏	「弟いる?」	otouto oru otoutowa oru	W/*G/*N
F 氏・H 氏	(タクシーを探していて)「あ、タクシーいたよ。」	takusiiwa ottawai takusiiwa oru	W/*G/*N
F 氏・H 氏	(探していた財布をみつけて)「あ、財布あった。」	zeniirega koketottawai zeniireno koketottawai zeniirewa koketottawai	W/G/N
F 氏	(友人に対して唐突に)「カニいる?」	kanyaa orukai	W/*G/(N)
F 氏	「わたしの指輪あった?」	orega yubiwaa attakai orega yubiwaga attakai orega yubiwa attakai	W/G/*N
F 氏	「わたしのぬいぐるみあった?」	orega nuigurumi attakai orega nuigurumyaa attakai	W/*G/(N)

F 氏	「君の家には猫いる?」	waregaenya nekono orukai waregaenya nekaa orukai waregaenya nekoga orukai	W/G/N
F 氏	「今日は(もう)猫いる?」	kyuuwa nekaa orukai	W/(G)/*N
F 氏	「お兄ちゃんいる?」	antyanwa orukai antyanga orukai antyanno orukai	W/G/N
F 氏	「(道端で唐突に)たばこある?」	tabako aruya tabakowa aruya tabakono aruya	W/*G/N
Y 氏	(聞き手と山田さんを探してて)「あ、山田さん、あんなところにいるよ。」	yamadasanwa agyantokee oruwai yamadasanga ogyantokee oruwai	W/G/*N
Y 氏	(休むって言ってたのに、その場所にいると相手に言われて)「え、お前いるの?」	waryaa gakkooni orutokai warega gakkooni orutokai	W/G/*N
Y 氏	(三郎の家を訪ねたら、「三郎今、川にいるよ」と三郎の母親に言われて、三郎に電話(携帯)をかけて)「お前今川にいるの?」	waryaa kawyaa orukai	W/*G/*N
Y 氏	(母親に電話を掛けたら、兄らしき人の声が聞こえて)「お兄ちゃんいるの?」	antyanwa orukai	W/*G/*N
Y 氏	(母親に電話で「今、家族がいつもより多いからね〜」と言われて)「お兄ちゃんいるの?」	antyanwa oruka antyanno orukanee antyanga orukanee	W/G/N
Y 氏	(お兄ちゃんに話したいことがあるんだけど、と前置きして)「お兄ちゃんいる?」	antyanwa orukai	W/*G/*N
Y 氏	(今日お兄ちゃんいるよ、と母親に言われて)「え、お兄ちゃんいるの?」	antyanwa orukai antyanno orukai antyanga orukai	W/G/N

Y 氏	(友人がお下がりの服を着ていて)「お兄ちゃんいるの?」	antyanno ottokai antyanga ottokai antyanwa orukai	W/G/N
Y 氏	(兄弟の話をしていて)「お兄ちゃんいるの?」	waryaa antyannoo orukai waryaa antyanwa orukai waryaa antyanga orukai	W/G/N
Y 氏	(電話をしていたら子供の声が聞こえて)「子供いるの?」※今の時間帯に、という意味で。相手に子供がいることを話し手は知っている。	kodomono orukai kodomowa orukai	W/*G/N
Y 氏	(あの人たち結婚したらしいよ、という話になって)「子供いるのかな?」	kodomowa orutokanee kodomono oddookanee kodomoga orutokanee	W/G/N
Y 氏	(友人と電話をしていたら子育てのことに話が及んで、そういえば、といった感じで)「お前子供いるの?」	waryaa kodomono orukai waryaa kodomoga orukai waryaa kodomowa orukai	W/G/N
Y 氏	(太郎、次郎、私の三人で遊ぶ約束をしていて、次郎が見当たらなくて、唐突に)「太郎、いる?」	taroowa orukai tarooga oruka	W/G/*N
Y 氏	(何人かで集まる約束をしていて、誰かが来てないという話になって)「そういえば、次郎いる?」	jiroowa orukai	W/*G/*N
Y 氏	(大人数の飲み会で五郎の話で盛り上がって、まわりを見渡しながら)「五郎いる?」	goroowa orukai gorooga orukai	W/G/*N
Y 氏	(今日花子が家にいるよ、と言われて)「え、花子いるの?」	hanakaa orukai hanakoga arukai	W/G/*N
Y 氏	(猫の鳴き声が聞こえて)「猫いる?」	nekaa orukai	W/*G/*N
Y 氏	(猫がいつもいる場所を覗いている友達に)「猫いる?」	nekaa orukai	W/*G/*N

Y 氏	(犬を飼っている友達の家に遊びに行って、唐突に)今、犬いる?	inna orukai	W/*G/*N
Y 氏	(犬を飼っている友人の家で犬の話をしていて)「今、犬いる?」	ima inna orukai ima inuga orukai	W/G/*N
Y 氏	(外で友人と猫の話をしていて)「ここら辺って、猫いる?」	konohennyaa nekaa orukai konohennyaa nekono orukai konohennyaa nekoga orukai	W/G/N
Y 氏	(「ここら辺、沢山猫がいるんだよねぇ」と言われて)「え、ヤギいるの?」	yagino orukai yagiga orukai	*W/G/N
Y 氏	(友人に「うち、犬いるんだ」と言われて)「え、犬いるの?」	inno orukai inuga orukai inuwa orukai	W/G/N
Y 氏	(道端で、唐突に)「たばこある?」	tabakaa arukai tabakowa arukai tabakono arukai	W/*G/N
Y 氏	(煙草をふかしてる人に対して or 喫煙所で)「たばこある?」	tabakowa arukai tabakono arukai tabakoga arukai	W/G/N
Y 氏	(一週間前に「俺禁煙してんだよ」って言ってた人にたばこを渡されて)「え、たばこあるの?」	tabakono arukai tabakoga arukai tabakowa arukai	W/G/N

【有題現象文とも文焦点とも解釈できる例】

T 氏	「あ、お兄ちゃんいる。」	antyanga oru antyan oru	*W/G/*N
T 氏	「弟いた。」	otoutoga otta otouto otta otoutowa otta	W/G/*N

T 氏	「弟いた。」	otoutoga otta otouto otta	*W/G/*N
T 氏	「財布あった。」	zeniirega aruwai zeniireno aruwai zeniirewa aruwai	W/G/N
F 氏・H 氏	「あ、お兄ちゃんいる。」	antyanga oru antyanwa oru	W/G/*N
F 氏・H 氏	「あ、お兄ちゃんいる。」	antyanga oru antyanno oru	*W/G/N
F 氏・H 氏	「あ、タクシーいる。乗ろう。」	takusiiga oru norou	*W/G/*N
F 氏・H 氏	「あ、タクシーいる。なんでだろう。」	takusiiga oru nandedarou	*W/G/*N
F 氏・H 氏	(都会のタクシー乗り場で)「タクシー来たよ。」	takusiiga kitawai takusiiwa kitawai	W/G/*N
F 氏・H 氏	(都会のタクシー乗り場で)「タクシー来たよ。」	takusiiga kitayoo takusiiwa kitayoo	W/G/*N
F 氏・H 氏	(椎葉で)「タクシー来たよ。」	takusiiga kitoru	*W/G/*N
F 氏	(たぶん体育館で指輪を落としただろう、とは思っている。体育館内の落とし物が集められているところに自分の指輪があるのを見つけて)「あ、(わたしの)指輪がある。」	a yubiwano attahuu	*W/(G)/N
F 氏	(たぶん体育館で指輪を落としただろう、とは思っている。体育館内の落とし物が集められているところに自分の指輪があるのを見つけて)「あ、(わたしの)指輪がある。」	aa yubiwa attawai aa yubiwaga attawai aa yubiwano attawai aa yubiwawa attawai	W/G/N
F 氏	(自分が昨日売った指輪が次の日店頭に並んでいるのを見て)「あ、(もう)(わたしの)指輪があるよ。」	mou orega yubiwaa aruwai mou orega yubiwaga aruwai	W/G/(N)

F 氏	「もうわたしのぬいぐるみあるよ。」	orega nuigurumyaa aruwai orega nuigurumino aruwai	W/*G/N
F 氏	(庭によくくる猫が来ているのをみつけて唐突に)「あ、(いつもの)猫がいるよ。」	akkenya nekono oruwai	*W/*G/N
F 氏	(庭によくくる猫が来ているのをみつけて唐突に)「あ、(いつもの)猫がいるよ。」	tanbii ano nekono oruwai tanbii ano nekaa oruwai	W/(G)/N
F 氏	(庭にいつもくる猫が、いつもより早く来ているのをみつけて)「あ、(もう)猫いるよ。」	kyuuwa erai hayoo nekono oruwai kyuuwa erai hayoo sangyanekaa oruwai	W/(G)/N
F 氏	(自分は兄と一緒に暮らしていて、道を歩いていると時々兄に会うことがある。友人と道を歩いていて、自分の兄の姿を見つけて唐突に)「あ、お兄ちゃんがいる。」	ara antyanno oru	*W/(G)/N
F 氏	(自分は兄と一緒に暮らしていて、道を歩いていると時々兄に会うことがある。友人と道を歩いていて、建物の中に自分の兄の姿を見つけて唐突に)「あ、お兄ちゃんがいる。」	akkee antyanno oruwai akkee antyanwa oruwai akkee antyan oruwai	W/(G)/N
F 氏	(道を歩いていて、隣を歩いている友人の足元にタバコが落ちているのを見つけて唐突に)「あ、たばこあるよ。」	asimotie tabakono aruwai	*W/(G)/N

F 氏	(さっき吸い殻を捨てたはずなのに、既に吸い殻が灰皿にたまっていて)「あ、(もう)たばこあるよ。」	mata tabakono aruwai mata tabakaa aruwai	W/(G)/N
F 氏	(自分の家を見たら一緒に住んでる兄の姿が見えて、お兄ちゃん先に帰ってきてるんだと思って)「あ、お兄ちゃんいる。」	ara antyan oru ara antyanwa oru ara antyanno oruhuu	W/*G/N
Y 氏	「あ、時計壊れてる。」	tokeeno utikuweetoru tokeega utikuweetoru tokeewa utikuweetoru	W/G/N

【文焦点】

F 氏	【意外】(なんかいる?に対して)「カニがいる」	kanino oruwai kaniwa oruwai	W/(G)/N
F 氏	(電話で、何か騒がしいけどどうしたの?と聞かれて)「親父が酒飲んでる。」	oyaziga syootyuu nuudoruwai	*W/G/(N)
F 氏	(自分の家をふと見ると、庭に泥棒がいて驚いて、唐突に)「あ、泥棒がいる!」	a doroboono oru a nusutoboono oru a nusutobooga oru	*W/(G)/(N)
Y 氏	(にやにやしていたら「どうしたの?」と聞かれて)「実は子供が生まれたんだ。」	kodomoga dekita kodomono dekita kodomaa dekita	W/G/N
Y 氏	(「物音が聞こえるけど。どうした?」に対して)「犬がいるよ。」	inuga oruwai inno oruwai inuwa oruwai	W/G/N

【項焦点】

F 氏	(電話で「(なんか宴会してるみたいだけど)誰が酒飲んでるの?」と聞かれて)「親父が酒飲んでるよ。」	oyaziga nomiyoruwai	W/(G)/(N)
F 氏	「誰が飲んでるの?」	darega nomiyorukai daryaa nomiyorukai	W/G/(N)
Y 氏	(「何がいる?」に対して)「犬がいるよ。」	inuga oruwai inno oruwai	W/G/N
●F 氏	「君の弟はやせたみたいだけど、お前は太った?」	warega otootowa yasetorudomoga waryaa koetanee warega otootowa yasetorudomoga warega koetanee	W/G/*N
F 氏	(あなたの家には猫はいないけど)「犬いる?」(対比)	waregaenya nekaa orandomo inna orukai waregaenya nekaa orandomo inno orukai	W/*G/N

【その他】

F 氏	(行ったことが無いお店に友達と一緒に行きながら)「良いもの、なんかあるかな。」	yokamonno nanka arudooka	*W/(G)/*N
F 氏	(朝市に友達と一緒に行きながら)「(もう)なんかあるかな。」	asa hayaakee nanka arudooka	*W/*G/(N)
F 氏	(朝市に友達と一緒に行きながら)「(もう)何があるかな。」	asa hayaakee nanno arudooka	*W/(G)/N
F 氏	(友達と一緒に川に行くことになって、その友達に対して)「(川に)なんかいるかな。」	kawanya nanika orudooka	*W/(G)/*N

F 氏	(友達と一緒に川に行くことになって、その友達に対して)「(川に)何がいるかな。」	kawanya nanino orudooka	*W/(G)/N
F 氏	(朝、前日にしかけを設置していた場所(山 or 川)に向かう途中で友達に対して)「(もう)なんかいるかな。」	nanika iddorudooka	*W/(G)/*N
F 氏	(朝、前日にしかけを設置していた場所(山 or 川)に向かう途中で友達に対して)「(もう)何がいるかな。」	nanino iddorudooka	*W/(G)/N
F 氏	(友人と公園に遊びに行く途中に、友人に対して)「誰かいるかな。」	kooennya dareka orudooka	*W/*G/(N)
F 氏	(友人と公園に遊びに行く途中に、友人に対して)「誰がいるかな。」	kooennya darega orudooka	(W)/G/(N)
F 氏	(友人と公園に遊びに行く途中に、友人に対して)「(もう)誰がいるかな。」	mou kooennyaa dareka orudooka	*W/(G)/(N)
F 氏	(友人と公園に遊びに行く途中に、友人に対して)「太郎はいるかな。」	taroowa orudooka	W/*G/(N)
F 氏	(一緒に遊ぶ約束をしている友人に対して、公園に向かう途中)「もう公園には太郎はいるかな。」	mou kooennyaa tarooga orudooka mou kooennyaa taroowa orudooka	W/G/(N)
F 氏	(いつもより早い時間に友人と学校に向かっている途中、友人に対して)「(もう)誰かいるかな。」	mou dareka orudooka	*W/*G/*N
F 氏	「もう公園には誰かいるかな。」	mou kooennya dareka orudooka	*W/*G/*N

F 氏	(遠くの道の上になんか物体があるのを見つけて)「あ、なんかあるよ。」	akkenya nanka aruga nanzyaroka akkena nanikaga aruga nanzyaroka	*W/G/(N)
F 氏	(一日前に設置された不用品回収箱の中を覗いて)「あ、(もう)なんかあるよ。」	mou nanika aruwai	*W/*G/(N)
F 氏	(唐突に、庭の草が揺れているのを見つけて)「あ、何かいるよ。」	nanka oruwai	*W/*G/(N)
F 氏	(仕掛けに獲物がかかっている様子を見て)「あ、(もう)何かいるよ。」	mou nanika oruwai mou nanikaga oruwai	*W/G/*N
F 氏	(友人と二人で餌を設置した。少し時間がたって友人だけが餌を見に行き、自分は友人を待っていた。餌場から戻ってきた友人に対して)「もう何かいる?」	mou nanika orukai	*W/*G/(N
F 氏	「川には何がいるだろうか。」	kawanyaa nanino orudooka	*W/(G)/N
F 氏	(外を歩いていて、家の中に人影があるのに気づいて唐突に)「あ、(お父さんか、お母さんか、お兄ちゃんかは分からないけれど)誰かいるよ。」	akkenya dareka oruwai	*W/*G/(N)
F 氏	【意外】(自分が一番最初に帰るだろうと思っていたのに、既に家に人影があるのをみて)「あ、誰かいる。」	a darekaga oruwai	*W/G/(N)
F 氏	(何人かで公園で遊ぶ約束をしている。友達と公園に行ったら人影が見えて、)「あ、(もう)誰かいるよ。」	mou dareka oruwai	*W/*G/(N)
F 氏	「もう誰かいるかな。」	mou dareka orukai	*W/*G/*N

Y 氏	「え、時計壊れてるの?」	tokeewa utikuweetorukai tokeeno utikuweetorukai tokeega utikuweetorukai	W/G/N
Y 氏	「あ、この時計壊れてる。」	kon tokeewa utikuweetoru kon tokeeno utikuweetoru kon tokeega utikuweetoru	W/G/N
Y 氏	「え、どの時計壊れてるの?」	dono tokeega utikuweetorukai dono tokeeno utikuweetorukai	*W/G/N
Y 氏	「去年尾前では子供が 3 人生まれた。」	kyonen omaezyaa sannin kodomoga dekita kyonen omaezyaa sannin kodomono dekita kyonen omaezyaa sannin kodomaa dekita	W/G/N